

講義科目名称：健康科学概論（N）

授業コード：51100180

英文科目名称：Health Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
巽 夕起			
開講曜限	授業形態		
火3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■1-1 対象の一人一人を唯一無二の存在であると理解し尊重できる
---------	--

科目の概要・目的	健康に影響する内的・外的要因について、様々な方面から学習し、対象の健康問題を解決に向けて、専門職としての健康支援について考える。
学習到達目標	1)健康に影響する内的、外的要因について知識を深める。 2)自分自身の健康観を説明できる。 3)専門職として人々の健康への支援について考えることができる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 ディスカッション・グループワーク：課題について意見を共有して、学びを深める。 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 特になし
成績評価の方法	【評価項目と割合】 課題提出 50% 定期試験（筆記） 50%
教科書・テキスト	使用しない。適時、資料を配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 健康支援と社会保障制度4 医学書院 ・公衆衛生がみえる2022-2023 メディックメディア ・国民衛生の動向2022/2023
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業計画に示した通り、事前学習課題に取り組み、完成して授業に参加する。終了後は授業内容を振りかえり、事後学修課題に取り組み、提出する。
履修上の留意事項	ディスカッションおよびグループワークには主体的に参加する。課題の提出は期日を厳守する。
オフィスアワー	月曜日 12:15-12:45 （メールでの質問にも対応します）
課題に対するフィードバックの方法	その都度、講義時に返却する。
実務経験	保健師
その他	特になし
授業の内容	1回目 健康の概念 健康の定義 【事前学修】自分の健康状態について考える 【事後学修】健康について自分の言葉でまとめる 2回目 健康の指標 健康に関する政策・指標について 【事前学修】ヘルスプロモーションについて調べる 【事後学修】健康に関する指標から自分自身の健康づくりについて考えをまとめる 3回目 保健行動と健康管理 保健行動と変容のための支援 【事前学修】保健行動について調べる 【事後学修】ヘルスプロモーションと健康の関係について自分の言葉でまとめる 4回目 ライフステージと健康 ライフステージにおける健康課題 【事前学修】ライフステージを調べる 【事後学修】自分の健康課題から成人期への影響を自分の言葉でまとめる 5回目 生活習慣と健康 生活習慣とメタボリックシンドローム 【事前学修】メタボリックシンドロームの定義を調べる 【事後学修】自分の生活習慣を振り返り、自分の言葉でまとめる 6回目 長寿と高齢社会

	<p>高齢社会における健康支援 【事前学修】 高齢化の状況を調べる 【事後学修】 高齢社会で自分が実施可能な支援について、自分の言葉でまとめる</p> <p>7回目 食生活と健康 食生活の現状、食事摂取基準・食生活指針について 【事前学修】 自分の食事内容をまとめる 【事後学修】 自分の食事内容を振り返り、今後の影響について自分の言葉でまとめる</p> <p>8回目 歯と健康 歯・口腔と排泄の関係から健康を考える 【事前学修】 口腔内の構造を調べる 【事後学修】 口腔内の健康管理の効果について、自分の言葉でまとめる</p> <p>9回目 運動と健康 運動の効果、スポーツ・レクリエーションの意義について 【事前学修】 自分の運動習慣をまとめる 【事後学修】 自分の運動習慣を振り返り、今後の影響について自分の言葉でまとめる</p> <p>10回目 休養と健康 睡眠と生活リズム・ストレスと健康 【事前学修】 自分の睡眠状況をまとめる 【事後学修】 自分自身のストレス改善の仕方について自分の言葉でまとめる</p> <p>11回目 嗜好品と健康 喫煙・飲酒と健康 【事前学修】 喫煙の影響について調べる 【事後学修】 禁煙指導について自分の言葉でまとめる</p> <p>12回目 薬物と健康 薬害・化粧品と健康、薬物依存について 【事前学修】 依存性薬物について調べる 【事後学修】 薬物を勧められた時の断り方を自分の言葉でまとめる</p> <p>13回目 環境と健康 生活環境と健康との関連 【事前学修】 地球環境問題を2つ調べる 【事後学修】 調べた環境問題にどのように対応するのか、自身ができることを自分の言葉でまとめる</p> <p>14回目 人的環境と健康 人とのつながりの中での健康 【事前学修】 地域の人的資源を調べる 【事後学修】 人とのつながりを構築するためにできることを自分の言葉でまとめる</p> <p>15回目 共生社会と健康 グローバル化と共生社会における健康 【事前学修】 日本に在住する外国人の状況・特徴を調べる 【事後学修】 共生社会における看護職の役割について、自分の言葉でまとめる</p> <p>定期試験</p>
--	---

講義科目名称： プレゼンテーション概論（N）

授業コード： 51101180

英文科目名称： Introduction to Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	選択
担当教員			
大澤 茂男			
開講曜限	授業形態		
水5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■6-2 知識を入手する技術を持つことができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>プレゼンテーションという人間の行為(働きかけ)について総合的に学びます。理論的整理をしながら現代の医療・健康増進上の課題に的確に対処できる人材にとって必要なプレゼンテーション技術・能力について考え、学んでいく授業です。</p>
学習到達目標	<p>・プレゼンテーションとは何か、自分なりに定義づけることができる。【知識・技能】</p> <p>・プレゼンテーションという行為(あるいはコミュニケーション)がどのような要素から成り立っているかを理解し、それを踏まえた計画と実行ができる。【思考・判断・表現】</p> <p>・プレゼンテーションに関して本授業で学びえたことを以後の自身の生活の中に生かそうとする態度や意欲を有している。【主体性】</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】特になし。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】クリッカーやタブレットは活用しませんが、遠隔授業を行う場合、課題提出・返却(コメント付き)にMSTeamsを活用します。</p> <p>【その他特記事項】なし。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】各授業回の成果物評価(平常点)、定期試験(論述式テスト)。</p> <p>【割合】各授業回の成果物評価(平常点)50%、定期試験(論述式テスト)50%として評価します。</p>
教科書・テキスト	<p>教員自作の資料(スライド、プリント)を用います。</p>
参考書	<p>各回のテーマに沿った文献などを授業中に適宜紹介します。</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>授業時に課されるいくつかのワークについては、授業時間外で取り組んでもらうものもあります。また、各回のテーマに関連する事前学習をその前の回に指示することがあります。</p>
履修上の留意事項	<p>出席の要件を満たし、論述式テストの出来が十分であっても、成果物の提出が不十分だと合格点に達しない場合があります。</p> <p>特別な場合を除き、「プレゼンテーション演習」の受講には本科目の履修(単位修得)が前提となります。</p>
オフィスアワー	<p>月3、水4 (4-403研究室)</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題提出の次の授業週にコメントを付して返却する形をとります。</p>
実務経験	<p>特記事項なし</p>
その他	<p>特になし</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 各回の内容を説明し、プレゼンテーションについて学ぶことの意義を確認します。 【事前学修】現時点でもっている「プレゼンテーション」のイメージについてコメントできるようにする。 【事後学修】授業中に視聴した映像をもとに、「プレゼンテーションとはどのような行為か」を考え、コメントができるようにする。</p> <p>第2回 プレゼンテーションの定義について いくつかの定義を紹介し、自分なりの定義づけも行ってみます。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】自分が定義した「プレゼンテーション」と、授業で紹介されたいくつかの定義の共通点と相違点について考える。プレゼンテーションにはどのような目的があるか考え、そのことについてコメントができるようにしておく。</p> <p>第3回 プレゼンテーションの「型」(要素)について 目的にそってプレゼンテーションをタイプ分けしてとらえます。そのうえで、それがいくつかの要素として機能することに注目します。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】プレゼンテーションを行う場合に、最も大切なポイントは何か考え、そのことについてコメントができるようにしておく。</p> <p>第4回 プレゼンテーションにおける聴き手分析① 聴き手の分析の重要性について触れ、いくつかの観点から聴き手を分析的にとらえます。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】プレゼンテーションにおける聴き手の存在をどうとらえたらいいか考え、そのこと</p>

第5回	<p>についてコメントができるようにしておく。 プレゼンテーションにおける聴き手分析② 聴き手の属性や社会的立場などに着目し、それによってどのような準備をすべきかを考えていきます。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】「マズローの欲求段階理論」についてインターネット上で大まかに調べておく。</p>
第6回	<p>聴き手分析のための理論 マズローの欲求段階理論や、広告作成の理論（AIDMA, AISAS）などをプレゼンテーションの準備に生かすことについて認識を深めます。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】今までに行ったことがあるプレゼンテーションの準備として、流れをどう作ったか振り返り、そのことについてコメントができるようにしておく。</p>
第7回	<p>プレゼンテーションの構成について① プレゼンテーション構成の基本について学びます。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】「3部構成」のポイントについて振り返っておく。</p>
第8回	<p>プレゼンテーションの構成について② 前時の学びをもとに、3部構成の実際について演習的に学びます。 【事前学修】提示されたテーマのうちどれをつかって3部構成の演習を行うか決め、大まかな流れを考えておく。 【事後学修】演習した（作成した）3部構成のプランでプレゼンテーションを行う場合に、どのようなツールを使うのが効果的か考え、そのことについてコメントができるようにしておく。</p>
第9回	<p>プレゼンテーションのツールについて 効果的なプレゼンテーション実施のための様々なツールの特徴と活用の仕方について学びます。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】プレゼンテーションを行う場合に、視覚的な資料をどう使うべきか考え、そのことについてコメントができるようにしておく。</p>
第10回	<p>プレゼンテーションにおけるビジュアル化について 視覚資料の効果について学び、その活用について考えます。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】プレゼンテーションにおけるビジュアル化の効果について自分なりの考えを深めておく。</p>
第11回	<p>ビジュアル化における図解化について ビジュアル化の一手法として有効な図解化について認識を深め、若干の演習を行います。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】「図解化」とは何かについて自分なりに考え、そのことについてコメントができるようにしておく。</p>
第12回	<p>PCでのプレゼンテーション資料づくり① テーマを各自で決め、プレゼンテーション実践の現場を想定したスライド資料作りをPC室にて行います。 【事前学修】前時に作成した「図解化」資料をもとに、プレゼンテーションソフト上でどのような資料を作成するか構想を練っておく。 【事後学修】作成途中のスライドデータの手直しを行っておく。</p>
第13回	<p>PCでのプレゼンテーション資料づくり② 前時に続き、PC室にて資料作りをすすめます。モニターを利用してお互いの作成資料を閲覧しあいながら行います。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】閲覧し合った互いの作成資料を参考に、自分の作成資料をブラッシュアップしてAポータルから提出する。</p>
第14回	<p>プレゼンテーションの総合力について（スキルを伸ばすためのヒント） 言葉遣いなども含め、プレゼンテーションの力を総合的に高めていくための工夫や手法について考えます。 【事前学修】今までの学修を振り返り、プレゼンテーションのスキルとして身につけたこととさらに身につけるべきことについて考え、そのことについてコメントができるようにしておく。 【事後学修】授業で紹介された様々なヒントについて、自分なりにどう生かすかを考えておく。</p>
第15回	<p>まとめ、全体の振り返り 前回までの学びを振り返り、今後の学びや職業生活のなかでプレゼンテーションの実践に積極的に取り組めるよう、成果と課題についてまとめてみます。授業アンケートも実施します。 【事前学修】前時に指示された準備学修に取り組む。 【事後学修】今後の学生生活や社会生活のなかで、プレゼンテーションのスキルをどう活用するべきか考え、自主的にスキルアップに取り組んでいく。</p> <p>定期試験</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
太田 誠			
開講曜限	授業形態		
水1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-1 対象の一人一人を唯一無二の存在であると理解し尊重できる</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>人間生活を考える際に、その主体である人間行動の理解が重要である。</p> <p>本講義では、生活のなかのさまざまな行動の基礎過程、特に知覚、学習、動機づけについて心理学の視点から焦点をあてて検討する。生活の中の人間行動に着目し、心理学の考え方についての理解をめざす。加えて、看護現場や健康に関わる人間行動、食行動の機制、行動変容等を心理学の視点から、エビデンスにもとづく知識と批判的思考によって検討する目を養うこともめざす。</p> <p>本講義は、対象の一人一人を唯一無二の存在であると理解し尊重することや、人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解することにつながり、看護対象となる人間の行動理解を助け、対象者への看護実践に必要な基本的・専門的・学際的知識と技術の一部となるものである。</p>
学習到達目標	<p>【知識】心理学の基本的な概念や用語が説明できるようになる。</p> <p>知覚、学習、動機づけなどの分野の基礎的な用語が説明できるようになる。</p> <p>【技能】行動変容の技法を活用することができるようになる。</p> <p>【態度】行動を科学的に捉えることができるようになる。</p> <p>データに基づいて考えることができるようになる。</p> <p>生活の中の人間行動を心理学的視点で捉えることができるようになる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>・実習、実験：図版や簡単な装置を使用しての実験・観察などを行います。</p> <p>特に、第6回～8回の「環境の認知 知覚情報の処理過程—もの見え方を中心に」では、図版や簡単な装置を観察や実験を行います。</p> <p>・グループワーク：グループで図版や簡単な装置を使用しての実験・観察を実施し、結果についてディスカッションします。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>なし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>3. 授業時に「復習課題プリント」を配布します。</p> <p>提出用：授業時に指示に従って記入し、提出してください。</p> <p>保存用：「提出用と同じ内容」と「自主的により理解を深めるための課題」から成る自習用課題です。持ち帰り、ノートや資料、テキストの内容を確認し記入してください。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>1. 課題（各回提出：20%）、定期試験（筆記試験：80%）により評価します。</p> <p>2. 各回授業で提出の課題は授業内容の理解を助けることを主眼とし、評価の割合としては定期試験を重視します。</p> <p>3. 授業出席が授業回数の2/3未満の者および受講に著しく問題のある者については単位を認定しません。</p> <p>4. 詳細は初回の授業時に説明します。</p> <p>【割合】</p> <p>1. 課題（各回提出：20%）、定期試験（筆記試験：80%）により評価します。</p>
教科書・テキスト	<p>1. 鹿取廣人 杉本敏夫 鳥居修晃 編 2020 心理学 第5版補訂版 東京大学出版会</p> <p>2. 資料プリント</p> <p>3. 復習課題プリント（各回提出用、自習用）</p> <p>4. 図版、装置など</p>
参考書	<p>1. 飯長喜一郎 岩立志津夫 編 2008 精神保健福祉士・社会福祉士 養成基礎セミナー第2巻 心理学 心理学理論と心理的支援 へるす出版</p> <p>2. 鳥居修晃 川上清文 高橋雅延 遠藤利彦 2011心のかたちの探求 異形を通して普通を知る 東京大学出版会</p> <p>3. 永田良昭 2011 心理学とは何なのか 中公新書</p> <p>4. 藤永 保, 斎賀 久敬, 春日 喬, 内田 伸子 1987 人間発達と初期環境 有斐閣</p> <p>5. 桜井茂男 岩立京子編著 2010たのしく学べる乳幼児の心理改訂版 福村出版</p> <p>6. 今田 純雄 編 2005 食べることの心理学—食べる、食べない、好き、嫌い 有斐閣選書</p> <p>7. 岩本隆茂 1988 オペラント心理学 その基礎と応用 勁草書房</p> <p>上記の参考書は、心理学の様々な研究方法や応用面を知ったり、より広い視野で考える上で参考にしてください。授業中にも参考書の内容を紹介します。</p> <p>その他の参考書は授業中に紹介します。</p>

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>1. 復習課題プリントを使って復習しましょう。授業時に「復習課題プリント」を配布します。提出用：授業時に指示に従って記入し、提出してください。保存用：「提出用と同じ内容」と「自主的により理解を深めるための課題」から成る自習用課題です。持ち帰り、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入してください。疑問点はメモし、質問しましょう。</p> <p>2. テキスト、配布資料プリントの資料を読んで理解を深めましょう。詳細は授業時に指示します。</p>
履修上の留意事項	用語を憶えると同時にストーリーの理解に努めてください。他の授業での学修内容や、生活の中での経験、健康指導、自分の興味関心などと関連づけて考えるように努めてください
オフィスアワー	曜日5限（事前に連絡してから訪問してください。） その他の時間も可能な限り対応します。事前に連絡してから訪問してください。 授業内容についての質問をする際には、質問内容に関わるテキスト、ノート、プリント、筆記用具等を持参してください。
課題に対するフィードバックの方法	<p>1. 授業時に提出されたカード：授業の参考にすると同時に、みなさんからの質問等で重要なものに対しては後の授業でコメントします。</p> <p>2. 復習課題等：授業中に学生の質問を受けつけたり、答え合わせをしたり、学生の記入内容へのコメントなどをします。</p> <p>3. 筆記試験：a-portalおよび後期授業等でコメントします。</p>
実務経験	なし
その他	<p>授業開始時刻までに着席しましょう。</p> <p>授業開始前に必要物（テキスト、ノート、筆記用具など）を準備し、配布物に目を通しましょう。</p> <p>配布物をファイル等に整理しておきましょう。</p> <p>授業中私語厳禁とします。授業中、携帯電話は電源を切り鞆の中に入れてください。</p> <p>積極的に質問をしましょう。</p>
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 授業についての事前アンケートを実施した上で、授業の概要、授業計画、授業の方法、学習到達目標、成績評価の方法などについて説明する。</p> <p>【事前学修】事前準備：事前にシラバスを読んでおくこと。テキストを持参すること。 【事後学修】復習課題とシラバスで、授業の概要や授業計画を確認しておくこと。</p> <p>第2回 心理学とは（1）：心理学とは何か 心理学の定義と研究領域について学ぶ。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、心理学の定義や研究領域につまとめておくこと。その際、ノートや配付資料プリントの内容などを確認しながら記入すること。 2) 授業で紹介された心理学の研究領域と自分が予想した領域との違いをまとめておくこと。</p> <p>第3回 心理学とは（2）：心理学の方法 観察、実験について理解を深める。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) テキスト、資料で紹介した観察・実験の事例について、目的、方法、結果をまとめ、その観察や実験からわかったことをまとめておくこと。</p> <p>次回の準備： 配布するケーススタディの資料を読んで、事例の概要をまとめておくこと。</p> <p>第4回 心理学とは（3）：心理学の方法 検査、ケーススタディ、研究倫理について理解を深める。</p> <p>【事前学修】事前準備：事前に配布するケーススタディの資料を読んで、事例の概要をまとめておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) テキストを参考に、検査の種類をまとめておくこと。 3) ヘルシンキ宣言の概要を調べておくこと。</p> <p>第5回 心理学とは（4）：心理学の歴史 心理学の基礎となる考え方の成り立ちを学ぶ。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。</p> <p>第6回 環境の認知 知覚情報の処理過程—もの見え方を中心に（1）情報の選択 感覚器官等による情報の選択について検討する。 図版や簡単な装置を使用しての実験・観察なども実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料</p>

第7回	<p>プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中に行った観察や実験について、方法と結果をまとめておくこと。</p> <p>第7回 環境の認知 知覚情報の処理過程—ものの見え方を中心に (2) 知覚の体制化 知覚の体制化について検討する。 図版や簡単な装置を使用しての実験・観察なども実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中に行った観察や実験について、方法と結果をまとめておくこと。</p>
第8回	<p>環境の認知 知覚情報の処理過程—ものの見え方を中心に (3) 奥行知覚等 奥行知覚等について検討する。 図版や簡単な装置を使用しての実験・観察なども実施する。</p> <p>【事前学修】事前準備： この回の図版観察の練習課題を事前に配布するので、可能な範囲で試しておくこと。但し、見え方には個人差があるので、可能な範囲で良い。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中に行った観察や実験について、方法と結果をまとめておくこと。</p>
第9回	<p>学習と行動変容・運動における行動変容 (1) : 学習とは、学習の基礎過程 (古典的条件づけ) 学習の定義について学んだ上で、学習の基礎過程、特に古典的条件づけ (レスポナント条件づけ) について学ぶ。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中紹介した実験について、方法と結果をまとめておくこと。 3) 関連する自分の体験についてまとめておくこと。</p>
第10回	<p>学習と行動変容・運動における行動変容 (2) : 学習の基礎過程 (道具的条件づけと行動変容) 学習の基礎過程、特に道具的条件づけ (オペラント条件づけ) と行動変容について学ぶ。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中紹介した実験について、方法と結果をまとめておくこと。 3) 関連する自分の体験についてまとめておくこと。</p>
第11回	<p>第11回 学習と行動変容・運動における行動変容 (3) 報酬と罰、観察学習・社会的学習理論、行動療法 罰刺激による行動のコントロールについて学び、報酬と罰の働きの違いを検討する。さらに、観察学習・社会的学習理論や行動療法について検討する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中紹介した実験について、方法と結果をまとめておくこと。 3) 関連する自分の体験についてまとめておくこと。</p>
第12回	<p>動機づけ—摂食行動の調節を中心に： (1) 生理的基礎をもつ動機づけ 動機づけの概念について学んだ上で、食の動機づけについて、視床下部の調節、他の要因について検討する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 関連する自分の体験についてまとめておくこと。</p>
第13回	<p>動機づけ—摂食行動の調節を中心に： (2) 生理的基礎をもつ動機づけ 食の動機づけについて肥満者の食行動、神経性食欲不振症について検討する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中紹介した実験について、方法と結果をまとめておくこと。 3) 肥満や神経性食欲不振症への医療としての対応をまとめておくこと。</p>
第14回	<p>動機づけ—摂食行動の調節を中心に： (3) その他の動機づけ、ストレスと認知等 食の動機づけ以外の動機づけやストレスと認知の関わりについて検討する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p>

	<p>と。 【事後学修】 授業後：復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。</p> <p>まとめ</p> <p>これまで学んだ内容を振り返り、授業の目標が達成されたか確認する。</p> <p>【事前学修】 これまでに配布したレジュメ・資料・課題をまとめて持参すること。 【事後学修】 復習課題を使って、基本的な事項を再度確認しておくこと。</p>
第15回	定期試験

講義科目名称： 情報リテラシー I (N)

授業コード： 51101880

英文科目名称： Information Literasy I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
古殿 幸雄			
開講曜限	授業形態		
金3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■6-2 知識を入手する技術を持つことができる
---------	---

科目の概要・目的	コンピュータや通信ネットワークの進展が著しい現代において、あらゆる分野で情報技術・通信技術が活用されている。ここでは、高度情報化社会の中で、情報資源を効率的に活用するための知識や技術を学ぶ。特に、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、マルチメディアやデータベース、デジタル著作権とマナーを中心に学ぶ。看護学科のDP「認知・課題解決能力」のための情報活用の必要性を理解できるようになる。
学習到達目標	①コンピュータのハードウェアのしくみが説明できる。 ②コンピュータのソフトウェアのしくみが説明できる。 ③情報資源を効率的に活用するためのマルチメディア、データベース、デジタル著作権とマナーについて説明することができる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 教科書を用いて講義形式で行うが、理解しやすいように、スライドや動画などを用いる。
成績評価の方法	【評価項目】 平常点、小テスト・演習点、定期試験（筆記） 【割合】 平常点（40%）、小テスト・演習点（10%）、定期試験（筆記）（50%）を総合的に評価する。各項目の内容については、第1回の講義時に説明する。
教科書・テキスト	古殿幸雄著『入門ガイダンス 情報のマネジメント ―不確実性への意思決定アプローチ― 第2版』中央経済社、2020年
参考書	古殿幸雄編著『最新・情報処理の基礎知識―IT時代のパスポート―』サイエンス社、2010年
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業の内容に述べた通り。
履修上の留意事項	情報リテラシーⅡも履修することが望ましい。
オフィスアワー	メールにて日程を相談して欲しい。
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施した際は、次の講義にて解説する。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	第1回 オリエンテーション 受講上のルール、予習・復習の方法、評価方法などの注意事項を述べた後、講義内容を外観する。 【事前学修】 シラバスを事前に読んでおく。 【事後学修】 教科書とシラバス記載の該当箇所を確認しておく。 第2回 コンピュータの歴史 コンピュータの歴史について、DVDビデオを観ながら概観する。 【事前学修】 コンピュータの歴史を事前に調べておく。 【事後学修】 コンピュータの歴史について整理しておく。 第3回 コンピュータ事始め コンピュータの発達過程について概観する。 【事前学修】 教科書p. 1～p. 6の14行目を事前に読み、専門用語の意味を調べておく。 【事後学修】 ノートと教科書を照らし合わせ、理解できていないことがあれば調べてみる。 第4回 コンピュータの構成要素 コンピュータを構成する五大装置について解説する。 【事前学修】 教科書p. 161～p. 165の4行目までを事前に読み、専門用語の意味を調べておく。ま

	<p>た、第3回の内容を復習しておく。 【事後学修】ノートと教科書を照らし合わせ、理解できていないことがあれば調べてみる。</p> <p>第5回 記憶装置の役割と種類 記憶装置の役割とその種類について、写真等を提示しながら解説する。 【事前学修】教科書p.165の5行目～p.168の11行目を事前に読み、専門用語の意味を調べておく。また、第4回の内容を復習しておく。</p> <p>第6回 【事後学修】ノートと教科書を照らし合わせ、理解できていないことがあれば調べてみる。 補助記憶装置の役割と種類 補助記憶装置の役割とその種類について、写真や映像を提示しながら解説する。 【事前学修】教科書p.168の12行目～p.169の19行目までを事前に読み、専門用語の意味を調べておく。また、第5回の内容を復習しておく。</p> <p>第7回 【事後学修】ノートと教科書を照らし合わせ、理解できていないことがあれば調べてみる。 入出力装置 入力装置と出力装置について解説する。 【事前学修】教科書p.169の下から5行目～p.172の4行目までを事前に読み、専門用語の意味を調べておく。また第6回の内容を復習しておく。</p> <p>第8回 【事後学修】ノートと教科書を照らし合わせ、理解できていないことがあれば調べてみる。 2進数 コンピュータで扱われるデータはすべて2進数であるため、2進数の演算について解説する。 【事前学修】高校で学んだ2進数の計算を復習しておく。また、第7回の内容を復習しておく。 【事後学修】授業で取り扱った計算について復習しておく。</p> <p>第9回 コンピュータネットワーク ネットワークの発展過程を概観する。 【事前学修】教科書p.173～p.175の8行目までを事前に読み、専門用語の意味を調べておく。また、第8回の内容を復習しておく。</p> <p>第10回 【事後学修】ノートと教科書を照らし合わせ、理解できていないことがあれば調べてみる。 ネットワークの構成要素 ネットワークの構成要素について、概念図を用いながら解説する。 【事前学修】教科書p.175の9行目～p.177までを事前に読み、専門用語の意味を調べておく。また、第9回の内容を復習しておく。</p> <p>第11回 【事後学修】ノートと教科書を照らし合わせ、理解できていないことがあれば調べてみる。 TCP/IPとプロトコル コンピュータ間でデータのやり取りをするためには、約束事が必要になる。ここでは、インターネットの通信プロトコルを中心にそのしくみを解説する。 【事前学修】教科書p.178～p.181までを事前に読み、専門用語の意味を調べておく。また、第10回の内容を復習しておく。</p> <p>第12回 【事後学修】ノートと教科書を照らし合わせ、理解できていないことがあれば調べてみる。 データベース データベースについて解説する。 【事前学修】データベースについて調べておく。また、第11回の内容を復習しておく。 【事後学修】ノートを読み返し、理解できていないことがあれば調べてみる。</p> <p>第13回 情報セキュリティ 情報セキュリティとその脅威、対策について解説する。 【事前学修】教科書p.183～p.191までを事前に読み、専門用語の意味を調べておく。また、第12回の内容を復習しておく。</p> <p>第14回 【事後学修】ノートと教科書を照らし合わせ、理解できていないことがあれば調べてみる。 著作権とマナー インターネットを利用する際の著作権とマナーについて解説する。 【事前学修】著作権について調べておく。また、第13回目の内容を復習しておく。 【事後学修】ノートを読み返し、理解できていないことがあれば調べてみる。</p> <p>第15回 総合演習 全体を総括する。 【事前学修】第2回～第13回までの内容から100問の演習問題を課すので、第2回～第13回までに実施した演習問題や復習問題を見直しておく。 【事後学修】総合演習問題を何度も復習しておく。</p> <p>定期試験 【事前学修】総合演習の問題で分からなかった内容があれば、分かるようになるまで調べておく。 【事後学修】試験で回答があやふやであったり、理解できていなかったりした問題を調べて、知識の定着を図る。</p>
--	--

講義科目名称： 大阪青山ゼミナール

授業コード： 51104000

英文科目名称： Osaka Aoyama Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
豊島 泰子、中村 晶子、西田 紀子、森川 真美、柏原 寛美、三浦 恭代、梅崎かおり、高橋 建司、清岡 美和子			
開講曜限	授業形態		
火2、木4	演習		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■4-1 他者の援助を行える人間性をもつことができる</p> <p>■6-3 学び続ける態度を身に付ける</p>
--------	---

科目の概要・目的	・大学での学修に必要な基本的姿勢およびスタディスキルを習得する。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の初学者に求められる学びの姿勢について説明できる。 2. 看護職になるための必要なスキルであるコミュニケーション能力を培うことができる。 3. 入学して卒業までの自己のキャリア育成のあり方を考えることができる。 4. グループ学習のあり方について考えを深めるとともに、グループ内での自己の役割を明確にし、積極的に話し合いに参加できる。 5. グループ内で取り組む課題を決定し、その課題に到達するために資料を収集し、その成果を発表することができる。 6. 効果的な発表方法を学び、他者の発表を清聴し自己の考えとの相違を自覚し、自己の学びに発展することができる。 7. レポートの書き方を理解することができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 グループ学習の参加度 レポート</p> <p>【割合】 グループ学習の参加度30%、レポート70%</p>
教科書・テキスト	・前原澄子、遠藤俊子監修：よくわかる大学での看護学生のための学び方 第2版 金芳堂
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・藤井徹也：看護学生スタートブック 医学書院 ・南田勝也他：ゼミで学ぶスタディスキル 第3版 北樹出版 ・世界思想社編集部編：大学生学びのハンドブック 4訂版 世界思想社 ・学習技術研究会：知へのステップ第5版 くろしお出版
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	・課せられた課題について、事前に各自で調べ、ディスカッションに反映させる。
履修上の留意事項	・4年間の大学生活で必要な知識・態度です。積極的に学習し、態度は身に付けてください。
オフィスアワー	豊島：12：15～12：45
課題に対するフィードバックの方法	その都度返却する。
実務経験	看護師・保健師
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 大阪青山大学の教育理念、看護学科の特徴、4年間の学びのあり方、本科目の位置づけ ・看護学科の特徴を理解し、大学での今後の学修に活かす。学生便覧持参</p> <p>【事前学修】 大学と高校との違いを自分なりに調べる。4年間の生活や学修の目標を考えておく。 【事後学修】 4年間の学修計画を立てる。</p> <p>第2回 ノートのとり方① ノートの取り方を学ぶ</p> <p>【事前学修】 教科書p10～19までよく読んでおく 【事後学修】 自分なりのノートのとり方を決める。</p> <p>第3回 看護職者に必要なマナー：態度、言葉使いなど マナーの専門家による看護師に必要な態度と言葉使いの演習を行う。</p>

第4回	<p>【事前学修】一般的な挨拶、言葉使いなどを自分で調べる。 【事後学修】自分の言動を振り返り、課題を挙げ記録しておく。 ノートの取り方② ノートのとり方を実践する。</p>
第5回、第6回	<p>【事前学修】講義時に提示する。 【事後学修】講義時に提示する。 効果的なコミュニケーションのとり方 専門家による指導により、グループワークを通して、基本的なコミュニケーションのとり方を実践する。</p>
第7回	<p>【事前学修】コミュニケーションの概要について、自分なりに調べる。 【事後学修】自分のコミュニケーションを振り返り、課題を挙げ記録しておく。 文章の読み方、レポートの書き方、文章の要約の仕方 【事前学修】テキストの中の今回の講義箇所を読んで予習する。 【事後学修】レポートによる課題はこれから頻繁に出される。高度なスキルであるため、今回の授業を何回も振り返る。レポートによる課題が出されたら、学修したことを活かして書くように心がける</p>
第8回	<p>効果的なグループワーク、カンファレンスとは 10回目～12目に行うグループワークのテーマを決める。</p>
第9回	<p>【事前学修】テキストの該当箇所を読んでおく。 【事後学修】講義時に提示する。 図書館の使い方、文献・資料の集め方（文献検索の方法） 2グループに分けて、図書館の使用法、図書検索について指導を受け実践する。</p>
第10回～第12回	<p>【事前学修】図書館で探したい図書を決める。 【事後学修】一人でも探索できるように復習する。 グループワーク 第8回で決めたテーマに沿って、グループワークを行う。 第14回では、プレゼンテーションに向けた準備を行う。</p>
第13回	<p>【事前学修】第8プワークの目的、方法、役割などを復習する。 【事後学修】役割（リーダー、メンバー、司会、書記など）を果たしたか否か、どれぐらい果たせたか、について振り返る。 日々の健康管理、ストレス対処 ・日々の健康管理 ・ストレス対処</p>
第14回	<p>【事前学修】テキストの該当箇所を読んでおく 【事後学修】講義時に提示する パワーポイントによる資料の作り方、効果的なプレゼンテーションとは 【事前学修】テキストの中から講義箇所を読んでおく 【事後学修】グループ学習の成果発表に活かす</p>
第15回	<p>グループ学習の成果をプレゼンテーションする グループワークの成果を発表する。 成果発表を通して、本科目の学びを共有する。 【事前学修】プレゼンテーションに必要なスキルを想起しながら、グループでプレゼンテーションの予習を行う。 【事後学修】役割（リーダー、メンバー、司会、書記など）を果たしたか否か、どれぐらい果たせたか、について振り返る。</p>

講義科目名称： 実用数学（N）

授業コード： 51104100

英文科目名称： Practical Mathematics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
若狭 周二			
開講曜限	授業形態		
火1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる
---------	---

科目の概要・目的	(看護学科) 大学では、どの授業でも数学的モデルによる説明や統計学的手法による分析が行われており、数式が全く出てこない教科書やテキストを探すことは難しい。一般社会においては、数学に関する計算力や数学的思考力は、多くのどの社会、職業に必要な基礎的能力である。本授業では基礎・基本となる数学とその学びを再確認し、数学的知識、技能、思考力を高め、今後履修する科目で必要とされる実用数学技能を高めるとともに、企業や自治体の採用試験で出題頻度の比較的高いSPI問題等を通して計算力や論理的思考力の向上を目標とする。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学において必要とされる数学の基礎的な知識や計算力を習得する。 ・論理的思考力をより高める。 ・数学の問題を主体的に解決していこうとする態度を身につける。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 毎時間、授業内容に加えて、数的推理や判断推理、資料分析や解釈など論理的思考を要する問題を取り上げ、その解法・考え方についてグループや全体で話し合う。 【ICTを利用した双方向授業】 未定 【その他特記事項】 特になし
成績評価の方法	【評価項目】 授業参加態度、 提出物、 小テスト、 定期試験（筆記） 【割合】 授業参加態度：20% 提出物：10% 小テスト20% 定期試験（筆記）50%
教科書・テキスト	新編 実用数学セミナー（浜島書店）、その他（授業時に配布）
参考書	特になし
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	必要があれば授業時に適宜紹介する
履修上の留意事項	必要があれば授業時に適宜紹介する。
オフィスアワー	授業終了後に講師控室へ
課題に対するフィードバックの方法	授業時を予定
実務経験	箕面市立公立中学校教員（校長、教諭） 大阪府教育委員会指導主事、社会教育主事 箕面市教育委員会指導主事 箕面市立公立中学校拠点校指導教員（初任者指導）
その他	特になし
授業の内容	第1回 数の計算（有理数の四則計算） 【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること 【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する 第2回 割合 【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること 【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること

第3回	<p>また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する 整式の計算</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第4回	<p>乗法公式</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第5回	<p>因数分解</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第6回	<p>無理数の計算</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第7回	<p>一次方程式</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第8回	<p>二次方程式</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第9回	<p>連立方程式(1) (2)</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第10回	<p>二次関数</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第11回	<p>面積・体積(1) (2)</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第12回	<p>順列(個数の処理)</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること</p>

	<p>また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p> <p>第13回 確率</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p> <p>第14回 直線の方程式</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p> <p>第15回 数列(1) (2)</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p> <p>定期試験</p> <p>【事前学修】 指定範囲のテキストの問題と配布プリントを復習すること</p> <p>【事後指導】 不得意なテーマを学習すること</p>
--	--

講義科目名称： 応用生物学

授業コード： 51104200

英文科目名称： Applied Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
若林 繁夫			
開講曜日	授業形態		
月2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる
---------	---

科目の概要・目的	近年、生命科学の話題が連日メディアに取り上げられている。新型コロナウイルス、iPS細胞を用いた再生医療、新しい医療技術・医薬品の開発、ゲノム編集を用いた遺伝子組み換え食品など、枚挙にいとまがない。医療現場にもこうした最新テクノロジー、最新生命科学の知識が取り入れられ、看護師としてもそのような素養を身に着けることは重要である。その最も基本的な知識として、「生命とは何か？」を理解することは極めて重要であり、そのため「応用生物学」について講義する。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球における生命の進化、人類の進化について学び、説明できるようになる。 2. 生命の基本単位、細胞の構造と機能について理解し、説明できるようになる。 3. 生命の基本原則「セントラルドグマ」について理解し、説明できるようになる。 4. 生物およびヒトの各臓器の構造と機能の概略を学び、説明できるようになる。 5. 現代病の多くが進化と文明化のスピードのギャップによって起こることを学び、説明できるようになる。 6. メディアの発信する生命科学・医学に関するニュースに触れる際、その生命科学的な背景について説明できるようになる。
授業の方法	【授業形態】 パワーポイントと板書を用いた、講義形式で行う。理解を深めるためにDVDを多用する。 【アクティブラーニングの取り入れ状況】 毎回、授業中に講義の感想を書かせ小テストを行い、出席カードとともに提出してもらう。また、できる限り学生に授業中に発言させるようにしたい。 【ICTを利用した双方向授業】 対面授業ができない場合には録画授業を行い、Streamを用いて履修者に発信する。情報はA-portalを利用して発信する。 【その他特記事項】 昨年度の授業アンケートでは、DVDの視聴が好評であった。そこで今年度も、生物学に興味を持ってもらうために、DVD視聴を多用したい。
成績評価の方法	【評価項目】 定期試験（筆記）、毎回の講義の平常点（小テストなど）によって評価する。平常点の前提として、講義中に配布する課題は必ず提出すること。 【割合】 定期試験（筆記）：80%、平常点：20%。
教科書・テキスト	毎回、資料を配布する。教科書は使用しないが、必要に応じて紹介する。
参考書	講義の中で、必要に応じて紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	各自、自分のノートを作ること。興味のあるテーマに関しては、紹介した本、参考書、教科書、WEBなどを利用して独自で勉強してみることに。
履修上の留意事項	筆記用具は毎回忘れずに持参すること。
オフィスアワー	出講日（月曜日、木曜日、金曜日）の講義などの予定が入っていない時間帯。
課題に対するフィードバックの方法	小テストや試験の結果について質問があればオフィスアワーで返答する。
実務経験	特になし
その他	特になし
授業の内容	第1回 生き物の進化と病気 「創造説」と「自然選択説」を対比させながら、地球上の生命がどのようにして生まれたのか、人類がどのようにして誕生したのかを考えたい。 【事前学修】 生命進化について、自分の興味のある本を読んだり、メディアなどで情報を入手すること。また、高校で習った生物学をもう一度復習しておくことを薦めます。 【事後学修】 配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。 第2回 人類の進化と病気・骨と皮膚の病 人類の進化について解説したのち、DVD「病の起源、骨と皮膚の病 ～それは”出アフリカ”に始まった～」を視聴し、現代病が進化と文明化のスピードのギャップによって起こることを理解する。 【事前学修】 人類の進化に関して、前回紹介した本など、自分の興味のある本を読んでおくこと。また、高校で習った生物学をもう一度復習しておくこと。 【事後学修】 配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のある

第3回	<p>テーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p> <p>生命体のつくりとはたらき</p> <p>生命の基本である細胞の構造について概説したのち、DVD「人体 ミクロの大冒険 ～あなたを創る！細胞のスーパーパワー～」を視聴し、細胞の持つ驚くべき能力について学ぶ。</p> <p>【事前学修】細胞の構造について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第4回	<p>生命維持のエネルギー</p> <p>生命はどのようにして必要なエネルギーを作り出しているのか、進化の過程で寄生したと言われるミトコンドリア、葉緑体を中心に学ぶ。</p> <p>【事前学修】ミトコンドリアの構造と機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第5回	<p>遺伝情報の伝達・発現のしくみ-1</p> <p>20世紀後半からの生命科学の輝かしい成果である、生命の基本原理“セントラルドグマ”について詳しく学び、生命とは何かを分子レベルで深く理解することをめざす。</p> <p>【事前学修】遺伝子の構造、情報伝達と発現の仕組みについて、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第6回	<p>遺伝情報の伝達・発現のしくみ-2</p> <p>第5回に引き続き、生命の基本原理“セントラルドグマ”について学んでいく。</p> <p>【事前学修】遺伝子の構造、情報伝達と発現の仕組みについて、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第7回	<p>遺伝情報の伝達・発現の仕組み-3 演習問題</p> <p>第5回、第6回で学んだ、生命の基本原理“セントラルドグマ”をもとに、遺伝子、DNA、RNA、蛋白質をより詳しく理解するために、講義の中で演習問題を解く。特に世界中で遺伝子の研究者が日常的に行っている研究業務の一端に触れ、遺伝子の面白さを感じてもらう。</p> <p>【事前学修】遺伝子の構造、情報伝達と発現の仕組みについて、第5回と第6回の内容を勉強し直すこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第8回	<p>細胞の老化、長寿とは何か？</p> <p>細胞の老化、ヒトの老化とは何かを解説したのち、DVD「長寿遺伝子」を視聴し、ある遺伝子のon-offがヒトの寿命をコントロールすることを学び、遺伝子の持つ不思議な魅力を理解する。</p> <p>【事前学修】第5回から第7回の遺伝子関連の内容を勉強し直すこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第9回	<p>個体の調節</p> <p>生物およびヒトの臓器、特に循環系について解説した後で、DVD「病の起源、心臓病～高性能ポンプの落とし穴～」を視聴し、人類の進化の過程で、脳の発達と心臓のポンプ機能が相反する関係があったことを学ぶ。</p> <p>【事前学修】生物の臓器、特に循環系の構造と機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第10回	<p>外界の刺激を受容するしくみ-1 (視覚)</p> <p>感覚器官である“目”の構造と機能について解説した後で、DVD「生命大躍進 ～そして“目”が生まれた～」を視聴し、カメラのような精巧な眼が生まれた進化の過程を新しい学説を交えて学ぶ。</p> <p>【事前学修】感覚器の構造・機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第11回	<p>外界の刺激を受容するしくみ-2</p> <p>味覚、嗅覚、触覚、聴覚、温度感覚などの分野では、最近の30年間で多くのことが明らかにされた。ノーベル賞級の研究を紹介しながら、これらの感覚器のもつ面白さを理解する。</p> <p>【事前学修】感覚器の構造・機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第12回	<p>生殖と発生</p> <p>生殖器・受精・妊娠・発生など生殖について解説した後、DVD「生命大躍進 ～そして“母の愛”が生まれた～」を視聴し、哺乳類が胎盤を持った“いきさつ”について学ぶ。</p> <p>【事前学修】生殖と発生について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第13回	<p>人類進化と脳</p> <p>ヒトの脳と神経系について概説した後で、DVD「生命大躍進 ～ついに“知性”が生まれた～」を視聴し、脳がなぜこれほど巨大化したのか、ネアンデルタール人と現代人の遺伝子の違いにも着目して考えてみたい。</p> <p>【事前学修】脳と神経系の構造と機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第14回	<p>人類の進化と病気・睡眠時無呼吸症</p>

第15回	<p>人類の骨格・顎の構造の進化について解説したあとで、DVD「病の起源、睡眠時無呼吸症」を視聴し、言葉の獲得と引き換えに、進化の過程で“のっぴきならない現代病”を背負い込むことになってしまった人類の宿命を学ぶ。</p> <p>【事前学修】呼吸器の構造と機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p> <p>人類の進化と病気・糖尿病</p> <p>飽食の時代といわれる現代のやっかいな病・糖尿病について解説した後で、DVD「病の起源～糖尿病～」を視聴し、糖尿病が、文明化のスピードに追いつかないことによって起こる“進化病”であることを理解する。</p> <p>【事前学修】血糖値の調節に関して、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強することを薦めます。</p> <p>定期試験</p>
------	--

講義科目名称：健康とスポーツ科学Ⅰ（実技）

授業コード：51104600 51104610

英文科目名称：Health & Sports Science I (Practice)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	選択
担当教員			
喜多 宣彦			
開講曜限	授業形態		
月3、4	実技		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる
---------	---

科目の概要・目的	健康の維持・増進には、運動が欠かせない。体力測定をすることにより自己の体力を把握し、自分の健康維持していくための機会とする。生涯スポーツを理解し、能力・経験に関わらず、スポーツを楽しむ能力を身につけ、スポーツの素晴らしさを伝えることができるようになる。チームスポーツを通して、共に協力し健康とスポーツの関係を考え、生涯にわたりスポーツを実施できるよう取り組み学習する。技術よりも自主的に運動することを心がけ、コミュニケーションスキルを養う。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの成果を踏まえ、生活の質の充実と心身の健康づくりを実現する。 ・様々なスポーツのあり方、楽しみを学習し、身体を動かすことの充実感を味わう。 ・基礎技術の習得と仲間とのチームワークの大切さを認識し安全に配慮する力を養う。 ・スポーツにおける自己表現力の向上を図る。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 必要に応じてグループ分けを行う。
成績評価の方法	【評価項目】 【割合】 受講態度及積極的な取り組み姿勢などの平常点（70%）、協調性・理解度・技能テスト（30%）を総合的に評価する。
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	参考図書：特になし
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加への体調維持、管理に留意すること。 ・ケガ予防の為、簡単なストレッチ等をできる限りすること。 ・スポーツ関連の話題に興味を持つこと。 ・学内では出来るだけ階段を利用すること。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は1-409（リズム室）で行います。 ・最初のオリエンテーションには必ず出席すること。（体操服着用する） ・運動着は高等学校の正課体育時に使用したもの、またはそれに準じる。 ・体育館シューズは、本学指定のものを使用する。 ・着替えは3号館ロッカー室を使用すること。 ・やむを得ず授業中にトイレに行く場合は教員に一言告げる（許可を取る）。 ・ピアス、指輪、ネックレス、付け爪等アクセサリは外して参加する。 ・貴重品は、各自で管理する。 ・体調不良・怪我などで運動が出来ない場合は、事前に相談すること。
オフィスアワー	・授業前後随時対応します。
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内で質疑応答を適時行う。
実務経験	社会体育スポーツ指導者
その他	遅刻は、授業の特性上厳禁である。
授業の内容	第1回 オリエンテーション・基礎トレーニングⅠ ・授業の進め方、評価及び受講に対するルール・マナーについての確認 ・リズム、運動の方向性など、筋力、瞬発力、脳への刺激などの総合的トレーニング 【事前学修】 シラバスを確認しておくこと 【事後学修】 トレーニング内容をまとめること 第2回 体力測定Ⅰ ・体力測定の結果で各自分析し評価する。

第3回	<p>【事前学修】 体力測定項目を確認しておくこと 【事後学修】 体力測定結果をまとめること</p> <p>バレーボールⅠ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習、ルール説明、（簡易ゲーム）
第4回	<p>【事前学修】 バレーボールのルールを確認しておくこと 【事後学修】 バレーボールのゲーム結果・課題をまとめること</p> <p>バレーボールⅡ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践練習、ゲーム（リーグ戦）
第5回	<p>【事前学修】 バレーボールのルールを確認しておくこと 【事後学修】 バレーボールのゲーム結果・課題をまとめること</p> <p>ニュースポーツⅠ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本技能、フリースビー投法、ルール説明、ゲーム
第6回	<p>【事前学修】 ニュースポーツについて調べておくこと 【事後学修】 フリースビーのゲーム結果をまとめる</p> <p>バドミントンⅠ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本練習、ルール説明、ゲーム（ダブルス）
第7回	<p>【事前学修】 バドミントンのルールを確認しておくこと 【事後学修】 バドミントンのゲーム結果・課題をまとめる</p> <p>バドミントンⅡ・卓球</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践練習、ゲーム（ダブルス）リーグ戦
第8回	<p>【事前学修】 バドミントンと卓球のルールを確認しておくこと 【事後学修】 バドミントンと卓球のゲーム結果をまとめる</p> <p>バスケットボールⅠ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本練習、ルール説明、簡易ゲーム
第9回	<p>【事前学修】 バスケットボールのルールを確認しておくこと 【事後学修】 バスケットボールのゲーム結果をまとめる</p> <p>基礎トレーニングⅡ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスボールでのトレーニング ・リズム、縄跳び、運動の方向性など、筋力、脳への刺激などの総合的トレーニング
第10回	<p>【事前学修】 バランスボールの使い方を確認しておくこと 【事後学修】 トレーニング内容をまとめること</p> <p>バスケットボールⅡ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践練習、リーグ戦
第11回	<p>【事前学修】 バスケットボールのルールを確認しておくこと 【事後学修】 バスケットボールのゲーム結果をまとめる</p> <p>フットサルⅠ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本練習、ルールの説明、ミニゲーム
第12回	<p>【事前学修】 フットサルのルールを確認しておくこと 【事後学修】 フットサルのゲーム結果をまとめる</p> <p>フットサルⅡ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践練習、リーグ戦
第13回	<p>【事前学修】 フットサルのルールを確認しておくこと 【事後学修】 フットサルのゲーム結果をまとめる</p> <p>ハンドボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習、ルール説明、ゲーム
第14回	<p>【事前学修】 ハンドボールのルールを確認しておくこと 【事後学修】 ハンドボールのゲーム結果をまとめる</p> <p>バスケットボールⅢ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践練習、リーグ戦
第15回	<p>【事前学修】 バスケットボールのルールを確認しておくこと 【事後学修】 バスケットボールのゲーム結果をまとめる</p> <p>体力測定Ⅱ・総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力測定・自己評価 <p>【事前学修】 体力測定Ⅰの結果を確認しておくこと 【事後学修】 体力測定の総合評価をまとめること</p>

講義科目名称： 伝統文化の世界

授業コード： 51104900 51104910

英文科目名称： The World Traditional Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
小倉 嘉夫			
開講曜限	授業形態		
金4、5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p> <p>■4-1 他者の援助を行える人間性をもつことができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>大阪青山大学の『学則』第1条、及び『建学の精神』（いずれも『学生便覧』に掲載）にうたうところの「わが国の文化と伝統に基づいた感性、知性、倫理性及び創造性を備えた個性豊かな教養人」になることを目的とした科目である。日本の伝統文化を多面的に学ぶ。</p> <p>古く日本の都であった奈良・京都、及び大阪を含むこの近畿地方は、長らく日本の政治・文化の中心であった。現在でも、至る所で貴重な遺跡や文化財、伝統文化に触れることができる。それを基礎とし、日本の歴史や文化について、時代の流れに沿いつつ具体的に学ぶ。さらに日本の暦とそれともなう年中行事、神社や寺院の祭礼、料理や和菓子などの食文化、日本の芸能、上方芸能等、日本の文化をあらゆる角度から見る。スライドやビデオなどの映像資料も視聴する予定である。また、大学付属の大阪青山歴史文学博物館はそのための格好の教材であり、所蔵される美術品について学びながら本学の教育方針である「本物に触れる教育」を体験する。日本文化に造詣深い、教養ある真の国際人とはどうあるべきかを学ぶ。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪青山大学の建学の精神及び教育目標を理解する（知識・理解） ・日本文化の歴史的変遷やこんにちの在りようについて関心を持ち、知識を深める（知識・関心・理解） ・日本の文化や伝統について深く考え、知り得たことを今後の生活の中で判断し、生かそうとする（思考・判断・意欲） ・各回の授業で学んだことを適切に文章などで表現することができる（技能・表現）
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点及び定期試験（レポート）</p> <p>【割合】 授業ごとに、考えを簡単に文章にまとめてもらいます。それを含めて平常点30%。 定期試験（レポート）70%。</p>
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配付します。
参考書	適宜、授業の中で紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	特に日本人が大切にしてきた「道」の文化から派生した礼儀作法、伝統文化に基づく対人関係のマナーについては日々心に留めて下さい。
履修上の留意事項	授業計画に記載の内容を全15コマで学びます。順は必ずしも記載の通りではありません。
オフィスアワー	木曜日1・2限、金曜日2・3限（2号館7階 研究室）
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてA-POTALを活用します。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 日本の伝統文化を学ぶ意義 【事前学修】『学生便覧』の「建学の精神」と「学則」第1条を読んでおくこと。 【事後学修】授業時に配布した資料を読んで復習すること。</p> <p>第2回 日本の歴史と文化 日本の歴史と文化の流れを概観 【事前学修】小中高で学んだ日本史の『時代』区分を復習すること。 【事後学修】授業中に配布した日本史年表をおさらいすること。</p> <p>第3回 日本の暦 月の満ち欠けと旧暦</p>

第4回	<p>【事前学修】「睦月」「如月」等の各月の異名を書き出してみること。 【事後学修】月の名称とその由来を復習すること。</p> <p>日本の年中行事 季節や月ごとの日本の年中行事 【事前学修】実際に今行っている年中行事について書き出すこと。 【事後学修】年中行事とその由来、歴史について復習すること。</p>
第5回	<p>日本の食文化 日本の伝統料理と和菓子の文化 【事前学修】季節や年中行事ごとの食文化を思いつく限り書き出してみること。 【事後学修】配付資料を読んで復習すること。</p>
第6回	<p>日本人と文字 日本人が使ってきた漢字と平仮名の歴史と文化 【事前学修】一例として自分の名前を平仮名で書き、その元になった漢字を書き出してみること。 【事後学修】配付資料を読んで復習すること。</p>
第7回	<p>日本の文学とその伝統Ⅰ 和歌入門 『百人一首』を中心に、「日本人の心」といわれる和歌について学ぶ 【事前学修】『百人一首』で知っている和歌、好きな和歌を思い浮かべ、その意味を考えること。 【事後学修】和歌から採られた和菓子の名前など、日常的な和歌の浸透について考えてみるこ</p>
第8回	<p>日本の文学とその伝統Ⅱ 俳句入門 海外にも創作人口が増えている日本の俳句について、特別招聘講師による入門講座と実作について学ぶ 【事前学修】担当講師の指示に従うこと（別途連絡）。 【事後学修】同上。</p>
第9回	<p>日本の芸能 文楽・歌舞伎 【事前学修】文楽や歌舞伎についてのテレビやYouTubeを視聴すること。 【事後学修】授業で学んだことを踏まえて、テレビやYouTubeで文楽や歌舞伎を視聴し、感想を書いてみるこ</p>
第10回	<p>日本の芸道 「道」の文化 【事前学修】これまで経験した「道」の付いた日本の伝統文化を思い出し、書き出してみること。 【事後学修】日常に息づいている「道」の精神が自分とどう関わっているか考えてみるこ</p>
第11回	<p>日本の茶道 日本の茶道についてその歴史や文化、礼儀作法 【事前学修】茶道とその歴史について知っていることを書き出してみること。 【事後学修】茶道を中心として発達した日本人のマナーについて、授業を踏まえて実践するこ</p>
第12回	<p>日本の伝統文化と美術品 日本人が大切に守り伝えた美術品 【事前学修】事前配布資料を熟読すること。 【事後学修】授業中に配布した資料を読んで復習すること。</p>
第13回	<p>大阪青山大学と伝統文化Ⅰ 国宝『土左日記』と重要文化財 【事前学修】中高校時代の国語の教科書があれば、『土左日記』に目を通しておくこと。なければ、辞典などで調べておくこと。 【事後学修】授業中に配布した資料を読んで復習すること。</p>
第14回	<p>大阪青山大学と伝統文化Ⅱ 博物館の美術品 【事前学修】事前配布資料を熟読すること。 【事後学修】授業中に配布した資料を読んで復習すること。</p>
第15回	<p>まとめ 自国の文化を理解すること、真の国際人とは。 【事前学修】配布したプリントに目を通し、ざっとこれまでの授業の総復習をすること。 【事後学修】学んだことを今後の生き方や進路にどのように役立てるのか考えること。</p>

講義科目名称： 法学（憲法）

授業コード： 51105100

英文科目名称： Low (Constitution)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
有澤 知子			
開講曜限	授業形態		
金1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■4-2 看護にまつわる法律を理解したうえで看護を実践できる</p>
---------	---

科目の概要・目的	日本国憲法の統治機構と基本的人権の保障について知る。日本国憲法は統治機構と基本的人権からできています。まず、基本的人権を保障するために統治機構がどのように規定されているかを見ていきます。それから人権の具体的な判例を見ながら基本的人権保障について勉強したいと思います。日本国憲法の全体について理解できるようになる。
学習到達目標	基本的人権の保障や統治機構がどのような権限を持ってどのようなことができるかを説明できるようになる。基本的人権の基本的な考え方について説明できるようになる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 ディスカッション</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、平常点</p> <p>【割合】 定期試験（筆記） 85% 平常点 15%</p>
教科書・テキスト	古野豊秋・畑尻 剛編『新・スタンダード憲法（第4版補訂版）』尚学社
参考書	長谷部恭男、石川健治、穴戸常寿（編集）「憲法判例百選 I（第7版）」有斐閣 芦部信喜『憲法（第6版）』岩波書店
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	教科書をよく読んでください、統治機構のところは条文にも目を通すこと。人権については判例を配りますのでそれも読んでください。
履修上の留意事項	休まないで授業に出て、聞いてください。わからないところはどんどん質問してください。
オフィスアワー	非常勤なので授業のはじめや終わりに質問してください。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で、質疑応答しながら進めて行きたいと思います。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 大日本帝国憲法と日本国憲法 天皇と権力分立 【事前学修】 テキストをよく読んで明治憲法から日本国憲法の歴史を理解してほしい。 【事後学修】 明治憲法と日本国憲法の条文を配りますのでよく読んで違いを把握してください。</p> <p>第2回 天皇 天皇の国事行為 【事前学修】 天皇は国事行為のみを行います、様々な国事行為があります。条文の6条7条ををよく見てください。 【事後学修】 国事行為について授業で詳しく説明します。条文で確かめてください。</p> <p>第3回 国会の地位、国会の構成 最高機関と唯一の立法機関、衆議院の優越 【事前学修】 テキストをよく読んで41条の意味を理解してください。 【事後学修】 衆議院の優越についても4つありますが、条文をみて確かめてください。</p> <p>第4回 国会の活動、国会議員の地位 会期制、国会議員の特権 【事前学修】 国会は会期制を取っています。国会にはどんな国会があるのか延長についてはどう定められているのか。テキストで読んでおいてください。 【事後学修】 国会議員の特権についてなぜそのようなものがあるのか考えてみてください。</p> <p>第5回 国会の権限、議員の権限 国会の権能、議院の権能</p>

	<p>【事前学修】国会ができることと、議院が自主的にできることは異なります。テキストであらかじめ読んでおいてください。</p> <p>【事後学修】国会の権能、議員の権能について何ができるのか理解してください。</p> <p>第6回 内閣 議院内閣制</p> <p>【事前学修】議院内閣制とは何か。テキストを読んで理解してください。</p> <p>【事後学修】議院内閣制について、国会と内閣の関係について理解してください。</p> <p>第7回 内閣の権限 内閣の権限、責任、総辞職</p> <p>【事前学修】内閣の権限について73条を読んで理解してください。</p> <p>【事後学修】内閣の責任は明治憲法の時と異なります。比較検討してください。また総辞職はどのような時にされるのか理解してください。</p> <p>第8回 裁判所と司法権 裁判所の組織と機能</p> <p>【事前学修】司法権とは何か。裁判所はどんな組織になっているのか、その機能は？</p> <p>【事後学修】司法権は何かについてまず考えてください。日本の裁判所にはどのような裁判所があるのか。また裁判官の任命や司法権の独立（裁判官の身分保障）についても考えてください。</p> <p>第9回 司法権の独立、違憲審査権 司法権の独立と憲法裁判</p> <p>【事前学修】司法権とは何か。司法権の独立についてテキストを読んであらかじめ理解してください。</p> <p>【事後学修】付随的審査権と憲法裁判権についての違いについても授業でしますので理解してください。</p> <p>第10回 人権総論 人権の種類と享有主体</p> <p>【事前学修】人権にはどのようなものがあるのか。人権の享有主体についてもあらかじめテキストを読んできてください。</p> <p>【事後学修】人権の分類について理解してください。人権の享有主体についてそれぞれの人がどのような人権を持てるのか、もてないのか理解してください。</p> <p>第11回 外国人の人権 マクリーン事件、参政権、公務就任権</p> <p>【事前学修】外国人の人権についてテキストを読んできてください。</p> <p>【事後学修】判例を配って説明しますので、理解してください。</p> <p>第12回 法人の人権 八幡製鉄事件、南九州税理士会事件</p> <p>【事前学修】法人の人権についてテキストを読んできてください。</p> <p>【事後学修】判例を配って説明しますので、理解してください。</p> <p>第13回 私人間効力 三菱樹脂事件、日産自動車事件</p> <p>【事前学修】私人間効力とは何かについてテキストを読んできてください。</p> <p>【事後学修】三菱樹脂事件、昭和女子大事件、日産自動車事件について判例を使って説明しますので理解してください。間接効力説を使っています。</p> <p>第14回 特別権力関係 公務員、よど号ハイジャック事件、喫煙の自由</p> <p>【事前学修】公務員の人権について、猿払事件を読んできてください。また、在監者の権利について読んで考えてきてください。</p> <p>【事後学修】判例を読んで説明しますので理解してください。</p> <p>第15回 法の下の平等 法の下の平等</p> <p>【事前学修】14条1項の解釈についてテキストを読んで理解してください。</p> <p>【事後学修】尊属殺人事件、国籍法3条の問題、非嫡出子の相続分、再婚禁止期間についての違憲判決などを読んで理解を深めてほしいと思います。</p> <p>定期試験</p>
--	--

講義科目名称： 英語 I

授業コード： 51105300 51105310

英文科目名称： English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
中村 隆之、浅野 みつ子			
開講曜限	授業形態		
月3、4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■6-2 知識を入手する技術を持つことができる
---------	---

科目の概要・目的	<p>基礎的な英語の総合的運用能力の養成を目的とします。平易な英語で書かれているテキストを用い、世界の様々な国や地域の文化や近年の科学的発展についての話題を通して、文法表現を確認し、読解力とリスニング力の向上を目指します。また看護師を養成する学科のポリシーを踏まえ、自文化理解・異文化理解を促進し国際的視野を広げていきます。</p> <p>授業は、基礎学力テストの結果に基づき習熟度別に2つのグループに分けて行います。担当教員は2名で、それぞれが担当するグループの授業を行います。また、主なテストの作成と評価は合議して行います。従って、どの教員も受講者からの授業に関わる質問や相談に応じます。</p>
学習到達目標	300～400語程度のエッセイや新聞記事等の英文を読んで理解できる。またはそれに関する会話を聴いて理解できる。内容理解の際に、基礎的な英文法知識をはじめ、リーディングストラテジー・リスニングストラテジーを活用できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>授業中は、ペアワーク・グループワークにおける受講生同士の積極的な交流を通じて、本文内容理解を深めます。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>単元によっては、Microsoft Formsを利用したオンライン課題が課されることがあります。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>対面授業が困難な状況の場合など、必要に応じてオンライン授業に切り替わることがあります。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（授業内筆記試験）、平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度））</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験 60%＋平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度）など）40%</p>
教科書・テキスト	Ambition Elementary（金星堂出版）
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎時間かならず予習準備をして臨むこと。また小テストや筆記試験に備えて毎回必ず復習すること。詳細は第一回授業で説明します。
履修上の留意事項	特にありません。
オフィスアワー	中村：火、水曜日12:10～13:00 ※上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可 ※ 詳細は第一回授業で説明します。
課題に対するフィードバックの方法	小テストや中間試験後は共通課題をその後の授業で全体共有します。またオンライン課題ではオンライン上で個別にフィードバックを行います。
実務経験	特にありません。
その他	特にありません。
授業の内容	<p>1 Guidance：授業の進め方、成績評価の説明等 【事前学修】英語学習への期待・不安を自己分析しておくこと 【事後学修】教科書付録音声データの確認</p> <p>2 Unit 1 Cleaning Abroad Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>3 Unit 1 Cleaning Abroad Reading & Comprehension Check 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p> <p>4 Unit 2 Instant Washoku Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習</p>

5	<p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>Unit 2 Instant Washoku</p> <p>Reading & Comprehension Check</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
6	<p>Unit 3 Natsuko' s Blog</p> <p>Vocabulary Check & Reading</p> <p>【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
7	<p>Unit 3 Natsuko' s Blog</p> <p>Reading&Comprehension Check</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時までの学習内容の復習</p>
8	<p>Review ①: Unit1 - 3</p> <p>Mid-Semester Exam（中間試験）</p> <p>【事前学修】 前時までの学習内容の復習</p> <p>【事後学修】 中間試験の解きなおし</p>
9	<p>Unit 4 Olympic Swimmer Karen Stevenson' s Blog</p> <p>Vocabulary Check & Reading</p> <p>【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
1 0	<p>Unit 4 Olympic Swimmer Karen Stevenson' s Blog</p> <p>Reading&Comprehension Check</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
1 1	<p>Unit 5 Steve' s Famous Look</p> <p>Vocabulary Check & Reading</p> <p>【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
1 2	<p>Unit 5 Steve' s Famous Look</p> <p>Reading&Comprehension Check</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
1 3	<p>Unit 6 How Nature' s Water Bottle</p> <p>Vocabulary Check & Reading</p> <p>【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習</p> <p>【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
1 4	<p>Unit 6 How Nature' s Water Bottle</p> <p>Reading&Comprehension Check</p> <p>【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>【事後学修】 本時までの学習内容の復習</p>
1 5	<p>Review ②: Unit 4 - 6</p> <p>Semester Final Exam 定期試験（授業内）、まとめ</p> <p>【事前学修】 前時までの学習内容の復習</p> <p>【事後学修】 期末試験の解きなおし</p>

講義科目名称： 情報処理 I （基礎）

授業コード： 51105900 51105910

英文科目名称： Information Processing I (Basic)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
古殿 幸雄			
開講曜限	授業形態		
金4、5	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	■看護学科■ ■6-2 知識を入手する技術を持つことができる
--------	---

科目の概要・目的	コンピュータや通信ネットワークの進展が著しい現代において、あらゆる分野で情報技術・通信技術が活用されている。ここでは、実際にシステムを利用することで、情報システムのしくみを理解するとともに、簡単な文書作成、各種文書ファイルを扱える能力を身につける。また、メールシステム・検索システムやネットワークドライブなどのネットワークツール、近年のネット上の様々な危険性を考慮し、情報セキュリティの重要性と配慮など基礎的な知識を学ぶ。さらに、プレゼンテーションソフトを用いて効果的に発表出来る能力を身につける。看護学科のDP「認知・課題解決能力」のために必要な情報処理能力を養うことができるようになる。
学習到達目標	①パソコンの基本操作ができる。 ②メールシステムを活用できる。 ③ネットワークツールを活用できる。 ④情報セキュリティについて正しく説明することができる。 ⑤Wordを活用できる。 ⑥PowerPointを活用できる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 パソコン教室で、実際にコンピュータを使用しながら、教科書に則りながら進める。
成績評価の方法	【評価項目】 平常点、演習点、課題点 【割合】 平常点（40％）、演習点（30％）、課題点（30％）を総合的に評価する。各項目の内容については、第1回の講義時に説明する。
教科書・テキスト	①大阪青山大学・大阪青山短期大学部情報教育センター「コンピュータ利用の手引」 ②実教出版編修部編『30時間でマスターWord2021—Windows 11対応』実教出版、2022年
参考書	実教出版編修部編『30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2021—Windows 11対応』実教出版、2022年
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業の内容に述べた通り。
履修上の留意事項	課題については、授業の前日までに完成させておくこと。
オフィスアワー	メールにて日程を相談して欲しい。
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施した際は、次の講義にて解説する。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	第1回 ガイダンスとパソコンの操作 講義内容の外観、受講上のルール、予習・復習の方法、評価方法などの注意事項を述べた後、パソコンの操作を行う。 【事前学修】 シラバスを事前に読んでおく。 【事後学修】 パソコンの操作内容を振り返っておく。 第2回 電子メールとインターネット 校内で使用する電子メールの設定を行い、電子メール利用やインターネット接続などに際しての注意事項について概説する。 【事前学修】 教科書①の該当部分を事前に読み、専門用語を調べておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。 第3回 電子メールの活用とインターネットの活用 電子メールの活用とインターネットの活用について学ぶ。 【事前学修】 教科書①の該当部分を事前に読み、専門用語を調べておく。また、第2回の内容を

第4回	<p>復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。 ネットワークツールの活用 様々なネットワークツールについて学ぶ。 【事前学修】 教科書①の該当部分を事前に読み、専門用語を調べておく。また、第3回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第5回	<p>情報倫理と情報セキュリティ 情報倫理と情報セキュリティについて学ぶ。 【事前学修】 教科書①の該当部分を事前に読み、専門用語を調べておく。また、第4回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第6回	<p>Wordの基礎 MS-Wordを用いて文字や文章の入力を行う。 【事前学修】 教科書②p. 23～p. 46を事前に読み、専門用語を調べておく。また、第5回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第7回	<p>文章の入力と編集 Wordを用いて、文章の入力や編集を行う。 【事前学修】 教科書②p. 48～p. 64を事前に読み、専門用語を調べておく。また、第6回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第8回	<p>Wordの活用1 Wordの活用について学ぶ。 【事前学修】 教科書②p. 71～p. 84を事前に読み、専門用語を調べておく。また、第7回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第9回	<p>ビジネス文書・Wordによる編集 ビジネス文書の作成や編集を行う。 【事前学修】 教科書②p. 85～p. 89を事前に読み、専門用語を調べておく。また、第8回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第10回	<p>Wordの活用2 Wordの機能を用いた高度な文書作成について学ぶ。 【事前学修】 教科書②p. 95～p. 101を事前に読み、専門用語を調べておく。また、第9回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第11回	<p>ワードアート・Wordの応用 ワードアートを用いて文章のデザインを学ぶ。 【事前学修】 教科書②p. 102～p. 127を事前に読み、専門用語を調べておく。また、第10回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第12回	<p>プレゼンテーションに必要な知識と準備方法 プレゼンテーションの必要性と事前準備の方法について解説する。 【事前学修】 プレゼンテーションについて調べておく。また、第11回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第13回	<p>PowerPointによるスライドの作成 PowerPointを使用してスライドの作成を学ぶ。 【事前学修】 PowerPointやプレゼンテーションのテーマについて事前に考えておく。また、第12回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第14回	<p>PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成 プレゼンテーションの構成を考えて、資料を集め整理して、PowerPointによるプレゼンテーション資料を作成する。 【事前学修】 プレゼンテーションに使用する資料を事前に集めておく。また、第13回の内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>
第15回	<p>全体のまとめ 全体を総括する。 【事前学修】 第1回目から第14回目までの内容を復習しておく。 【事後学修】 授業の内容を振り返り、理解できていないことがあれば調べてみる。</p>

講義科目名称： 日本語 I（読解・分析）

授業コード： 51100980

英文科目名称： Japanese I (Reading & Analysis)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
大澤 茂男、三木 慰子、渡口 行雄			
開講曜限	授業形態		
木3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■6-2 知識を入手する技術を持つことができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	母国語としての日本語の運用能力を高めるため、「読む、書く、聴く、話す」活動の実践を中心に展開している科目です。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業し社会人として活躍するために必要な言葉の知識・表現技能を十分身につけている。【知識・技能】 ・場面や状況に応じて、日本語を用いた的確な判断・適切な表現をすることができる。【思考・判断・表現】 ・日本語の学修に主体的かつ協働的に取り組むことができる。【主体性・協働性】
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 ペアワーク（2回）</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 遠隔授業を行う場合、一部の課題提出・返却(コメント付き)にMSTeamsを活用します。</p> <p>【その他特記事項】 全体を3つのグループに分けて実施するため、2回目以降の授業はそれぞれ担当者別の①～④の内容となります。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 各教員の授業回（4回ずつ）の平常点、eラーニングの学修成果、全体授業での課題達成状況。</p> <p>【割合】 各教員の授業回（4回ずつ）の平常点をそれぞれ20%とし、eラーニングの学修成果を20%、全体授業での課題達成状況（漢字テスト含む）を20%として合算します。</p>
教科書・テキスト	漢字検定3級 頻出順完成問題（増進堂）
参考書	各教員が授業の中で提示する場合があります。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	eラーニング「アオドリ ワカドリコース」の学修がこれにあたります。また、それぞれの教員の授業内容に応じた【事前学修】 【事後学修】 が授業時間外の学修として「授業の内容」に示されています。
履修上の留意事項	授業内での活動を重視します。積極的に授業に参加してください。
オフィスアワー	大澤：水曜2限、木曜4限（大澤研究室：4-403） 三木：研究室は1号館307。月、火、木の昼休み（12時30分～13時） 渡口：授業終了後に、非常勤講師の控室で相談に応じる。
課題に対するフィードバックの方法	各教員とも、提出の次の授業週にコメントを付して返却する形をとります。
実務経験	大澤：国立高専における1～3年次生「国語」担当（5年間） 渡口：新聞記者 三木：高等学校における1～3年次生「国語」担当（3年間）
その他	特記事項なし
授業の内容	<p>第1回 全体授業（オリエンテーション） 学年を3つのグループに分け、次の週からグループ別の授業を展開することなど、本科目の進め方や教室外の学修、eラーニングの活用などについて説明。 【事前学修】 シラバスを精読する。 【事後学修】 グループ別授業の担当教員と授業内容を確認し、必要な準備をする。</p> <p>第2回 渡口① 元号「令和」の出典・中学入試最難関に挑戦（漢字クイズ=灘中の問題）・漢字ドリル（熟語の構成）。 【事前学修】 第1回目の全体授業で指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】 本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p> <p>第3回 渡口② 新聞記事から探る①三種の漢字について・漢字ドリル（四字熟語）。 【事前学修】 前時に指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】 本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p> <p>第4回 渡口③ 新聞記事から探る②漢字で表す外国名・漢字ドリル（部首）。 【事前学修】 前時に指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】 本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p>

第5回	<p>渡口④ 新聞記事から探る③こんなに変わった珍苗字・漢字ドリル(同音同訓異字)。 【事前学修】前時に指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p>
第6回	<p>三木① 「名前」を感じる・知る・紹介する(あいうえお作文)・漢字ドリル。 【事前学修】あいうえお作文を考える。 【事後学修】名前の由来を知らない人は必ずご両親などに尋ねておく。</p>
第7回	<p>三木② 季節を感じる・知る(年中行事と記念日クイズ)・漢字ドリル。 [伝統文化に学ぶ、伝統文化の世界の授業に繋げる予定] 【事前学修】月ごとの行事を書いてみる。 【事後学修】気になる行事に関して、由来や内容に関して調べてみる。</p>
第8回	<p>全体授業(中間まとめ) 漢字100問テスト、中間アンケートなど。 【事前学修】これまでの授業内容を振り返るとともに、漢字テストのために必要な準備をおこなう。 【事後学修】返却後の漢字テストを確認し、誤答部分について知識を補填・更新しておくとともに、次回以降の各担当教員から指示された授業の準備をおこなう。</p>
第9回	<p>三木③ 他者を感じる・知る(卒業生からの学び一話す)・漢字ドリル。 【事前学修】メモの取り方について考える。 【事後学修】卒業生のプレゼンテーションから得たこと(内容はいうまでもなく、話し方、メモの取り方、まとめ方)を振り返る。</p>
第10回	<p>三木④ 他者を感じる・知る(卒業生からの学び一書く)・漢字ドリル。 【事前学修】指定されたYouTubeを見て、メモをとる。 【事後学修】授業中に紹介した他のYouTubeをみる。</p>
第11回	<p>大澤① 職場想定自己紹介、「ことばあて」(伝達力を鍛えるペアワーク)、漢字ドリル。 【事前学修】将来つきたい職業・職種について考え、現時点の希望進路を考えておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、本時に指示された次回授業の準備をおこなう。</p>
第12回	<p>大澤② 「かんじがいいね」(表記法に関するセルフワーク)、「図形あて」(伝達力を鍛えるペアワーク)、漢字ドリル。 【事前学修】漢字かな交じり表記の長所について考えておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、本時に指示された次回授業の準備をおこなう。</p>
第13回	<p>大澤③(3号館図書室にて実施) 専門分野関連書籍の書評作成演習、漢字ドリル。 【事前学修】3号館の図書室に入館し、自分の専門分野に関連する書籍を探しておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、本時に指示された次回授業の準備をおこなう。</p>
第14回	<p>大澤④ 文章の要約に関する演習(セルフワーク)、漢字ドリル。 【事前学修】文章を要約した経験を振り返り、それについてコメントできるようにしておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p>
第15回	<p>全体授業(最終まとめ) 科目全体の学修内容を総括、漢字確認テスト、授業アンケートなど。 【事前学修】各教員の授業内容を振り返るとともに、漢字の確認テストのために必要な準備をおこなう。 【事後学修】本授業全体の内容を振り返り、自分自身の日本語力をさらに伸ばしていくために今後取り組むべきことは何か考える。</p> <p>※グループごとに、第2～7回および第9～14回の内容と担当者が変わります。第1回の授業で詳しく説明します。</p>

講義科目名称： ボランティア活動論

授業コード： 51107200

英文科目名称： Volunteer activity theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	選択
担当教員			
塩野 徳史、森川 真美、中島 千英子			
開講曜限	授業形態		
木5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■看護学科■ ■4-1 他者の援助を行える人間性をもつことができる
---------	--

科目の概要・目的	「ボランティア」という言葉の基本的な意味と実際を知るとともに、看護や医療、人に関わる様々なボランティア活動を実践し、その理論と意義を学ぶ機会とする。 また、ボランティア活動をしているゲストスピーカーの体験を伺い、NPO活動やボランティア活動を継続する思いやそこに込められた願いなどを聴き、さらに実際の体験を通して、他者の援助を行う人間性を養う。
学習到達目標	1) 自分が捉えたボランティア活動の具体的な意味を説明できる。 2) 看護や医療、人に関わるボランティア活動を通して、他者の援助を行う意味について表現できる。 3) 自ら進んで行動したときの気持ちが表現できる。 4) ボランティア活動と看護や医療をつなげて考え、討議できる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 学外でのボランティア活動を主体とする。詳細については初回の講義時に説明する。本科目は、学生自身が主体的に行動することが基本です。大学生として様々な人との出会いや地域の課題を体験し、解決に向かって参加する楽しみを見つけることができるようなグループワークやアイスブレイクを取り入れる。 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 特になし
成績評価の方法	【評価項目】 活動記録、発表会での自己評価、他己評価、最終レポートを参考に、学習目標に対する到達状況を総合的に評価する。 【割合】 活動記録 (50%)、発表会の自己評価、他己評価 (30%)、最終レポート(20%)
教科書・テキスト	教科書はありません。必要時に資料を配布します。
参考書	必要時に紹介します。
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	授業時間外の学修のほとんどはボランティア活動にあてられます。したがって、提示がない限り、特段の事前・事後学習はありません。 ただし、ボランティア活動に参加するにあたって、場合によっては最低限の基礎知識や社会人としての基礎力を身につけておく必要があります。
履修上の留意事項	・ボランティア活動を実践する際には、大阪青山大学看護学科の学生であることを忘れずに行動する。 ・ボランティア活動先は主体的に自分自身で調整するが、他の講義や演習を優先し、影響がないように調整する。 ・ボランティア実施中に何か不都合が生じた場合は、速やかに担当教員に連絡し、相談する。
オフィスアワー	塩野徳史：講義・会議のない月曜から木曜日、9時-16時の間であればいつでもお越しください。 場所：5号館 研究室102
課題に対するフィードバックの方法	提出された活動記録をもとに、必要に応じて面談等を行い、適宜フィードバックします。 また、活動記録は発表会やレポート作成時に返却します。その時に相談したいことや話したい内容を聴いて随時フィードバックしていきます。
実務経験	塩野 徳史 看護師・森川 真美 看護師 助産師・中島 千英子 看護師 保健師
その他	本科目では、大阪市や箕面市で活動する、看護や医療、人に関わる様々なボランティア活動に参加することができます。基本的には、自分自身の関心に応じて希望する活動に参加できるように調整していただきますが、教員がサポートしたり、紹介できる場合もあります。 ボランティア活動を楽しみながら体験して、「人」や「地域」に触れ、これから、みなさんが看護を学んでいくために必要な「人間性」を磨く機会にしてほしいと思います。
授業の内容	第1回 ボランティア活動 (アイスブレイク) 1) オリエンテーション ・講義の進め方 ・活動日誌の書き方と提出方法について 2) ボランティア活動の体験についての共有 学生間でボランティア活動の体験について共有し、これからの学びにつなげる 【事前学習】 シラバスを読み、ボランティアとは何かについて考える。 第2回 ボランティアとは何か ・ボランティアの意味や概念について歴史的な側面から概観する。(箕面市社会福祉協議会 ボランティアセンターの担当者から講義を受ける)

第3回	<p>【事後学習】講義終了時に提示する。 NGO・NPOとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NGOやNPOの制度について説明をうけ、実際の現場について知る。（箕面市社会福祉協議会 ボランティアセンターの担当者から講義を受ける）
第4回	<p>【事後学習】講義終了時に提示する。 大阪市・箕面市のボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市、箕面市のボランティア活動の実際について活動を行っている団体から活動内容の説明を受ける。 ・主体的にボランティア活動の体験計画を立案する。
第5-12回	<p>ボランティア活動体験</p> <p>1) ボランティア活動の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則としてボランティア活動先は自分自身で調整することが望ましい。第3回終了後から第13回までの間（5月、6月の約2ヶ月間）に参加できる、看護や医療、人に関わるボランティア活動が望ましい。 ・ボランティア活動を行う際には、単発的なボランティア活動よりも継続して同じボランティア活動に参加することが望ましい。 ・学生は、ボランティア活動を体験し、終了毎に活動日誌を記入し、提出する。 ・ボランティア活動は8コマ分とする（例えば、午前9時から12時までの時間帯にボランティア活動に参加した場合には2コマと計算する、ただし1日の参加は2コマ分を上限とする）。 ・大阪青山大学の学生としてふさわしい態度と誠意をもって、ボランティア活動に参加する。
第13回	<p>ボランティア活動体験（発表会の準備）</p> <p>1) 発表会は学生が主体的に運営する。</p> <p>2) 資料の作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表はパワーポイントを活用して行う。 ・スライドのサイズは標準（4：3）のものを使用する。 ・フォント、色等は相手に見やすいもの、伝わりやすいものを考え自由に選択する。 ・スライドは表紙にタイトル [〇〇を体験して] をつけ、学籍番号、氏名を記載する。 ・イラスト、資料や画像を用いるときには、個人情報に留意し、ボランティア先の許諾を得ているものとする。 ・ボランティア活動を通して、自分自身が「体験したこと」「感じたこと」を記載し、「これから看護や医療を学んでいくうえで、この体験がどのようにつながっていくのか」自分の考えをまとめる。 ・最後に受け入れていただいたボランティア先やお世話になった方への謝辞を記載する。
第14-15回	<p>ボランティア活動体験（発表会）</p> <p>1) ボランティア体験内容の発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各人の発表を聞いて、気づいたこと・感じたことを意見交換する。 ・各人の発表を聞いて、自分自身の体験を振り返り、評価基準を参照に評価する（自己評価および他己評価）。 <p>2) まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは学生便覧を参照し、表紙をつけて、A4用紙2枚にまとめる。 ・レポートのテーマ「ボランティア活動を体験して学んだこと」とする。 ・発表会の内容を踏まえて、自分の考えや学びを深めた内容を記載し、提出期限内に提出する。

講義科目名称： 解剖生理学 I (N)

授業コード： 51200970 51200980
51200990

英文科目名称： Anatomical Physiology I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
若林 繁夫、泉谷 泰行			
開講曜限	授業形態		
木2、金2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>昨今、医学の進歩により医療現場は高度化し、また高齢社会など社会環境の変化に伴い患者の病態は複雑化している。このような状況の中で看護師は、チーム医療の主力として患者に対して常に直接接し、医師と共に医療現場の両輪となって診断および治療(cure)やcareを行わなければならない。患者に対して質の高い医療を提供するためには、疾患に関する正確な知識をもとに、目の前の患者の病態を正しく理解することが必要不可欠である。そこでまず、医学・医療を志す学生が最初に学ぶ学問が解剖学と生理学である。解剖学は「人体の構造」ともいい、主に健康な身体の形態について学び、生理学は「人体の機能」ともいい、主に健康な身体の機能について学ぶ。解剖生理学 I では、人体の構成の基本単位である「細胞」について学び、骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、自律神経・内分泌系について講義する。講義は二人の教員が交互に行うこととする。解剖生理学I-1 (泉谷担当)、解剖生理学I-2 (若林担当)。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の基本的な構造について理解できる。 ・人体の基本的な機能について理解できる。 ・人体が一つの統合された存在であることを理解し説明できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 講義の復習として動画を配信する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 講義ノートあるいは毎回の課題、小テスト、定期試験（筆記およびマークシート）</p> <p>【割合】 講義ノートあるいは提出課題（20%）、小テスト（20%）、定期試験（筆記およびマークシート）（60%）</p>
教科書・テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学（第10版）、坂井建雄・岡田隆夫、医学書院
参考書	<p>①Qシリーズ 新解剖学（第7版）、加藤征、日本医事新報社</p> <p>②Qシリーズ 新生理学（第7版）、竹内昭博、日本医事新報社</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>（泉谷）各自、手書きの講義ノートを作成すること（※ワープロは不可）。</p> <p>（若林）何回か課題を提出させるので、資料や教科書を参考に仕上げること。</p>
履修上の留意事項	<p>①講義ノートを持参して下さい。</p> <p>※ノートのサイズや種類は自由ですが1年間使用するので各自保管しやすい形式にして下さい。</p> <p>②勉学にいそむ学生の邪魔をする行為（過度な私語など）は禁止する。</p> <p>③講義中の携帯電話・スマートフォンの使用は禁止する。</p> <p>上記①～③の項目は必ず守って下さい。また、解剖生理学 I の講義では医学の専門用語の単なる丸暗記ではなく、まずは内容を理解し身体をイメージすることを念頭に置いて下さい。</p>
オフィスアワー	<p>（泉谷）講義後、非常勤講師控室で対応します。</p> <p>（若林）月曜日、木曜日、金曜日の講義や会議のない時間帯</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>①定期的に行う小テストに関しては、次回の講義にて返却する。</p> <p>②講義ノート提出後はチェックし返却する。</p> <p>③定期テスト、小テストあるいは課題に関する疑問点についてオフィスアワー等で対応する。</p>
実務経験	（泉谷）鍼灸師
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 （泉谷）オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）、解剖生理学総論 シラバスを事前に読んでおくこと。 【事前学修】①シラバスを事前に読んでおくこと。②解剖生理学 I では、各自講義ノートを作成するため、ノートおよびルーズリーフを準備しておくこと。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>第2回 （若林）消化器の構造と機能①、口・咽頭・食道の構造と機能 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを完成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>第3回 （泉谷）循環器系の構造と機能①：心臓の構造について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>

第4回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(若林) 消化器の構造と機能②、胃の構造と機能</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第5回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(泉谷) 循環器系の構造と機能②：心筋の基本的性質について解説する。</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第6回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(若林) 消化器の構造と機能③、小腸・大腸の構造と機能-1</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第7回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(泉谷) 循環器系の構造と機能③：心周期、心音、心電図について解説する。</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第8回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(若林) 消化器の構造と機能④、小腸・大腸の構造と機能-2</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第9回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(泉谷) 循環器系の構造と機能④：動脈の走行および名称について解説する。</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第10回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(若林) 消化器の構造と機能⑤、膵臓・肝臓・胆嚢および腹膜の構造と機能-1</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第11回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(泉谷) 循環器系の構造と機能⑤：動脈、静脈の走行および名称について解説する。</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第12回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(若林) 消化器の構造と機能⑥、膵臓・肝臓・胆嚢および腹膜の構造と機能-2</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第13回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(泉谷) 循環器系の構造と機能⑥：静脈、リンパ管の走行および名称について解説する。</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第14回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(若林) 腎・泌尿器の構造と機能①、腎臓の構造と機能-1</p> <p>冒頭で、第2, 4, 6, 8, 10, 12回目の講義に関する小テストを行う。</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第15回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(泉谷) 血液の組成と働き①：赤血球について解説する。</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第16回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(若林) 腎・泌尿器の構造と機能②、腎臓の構造と機能-2</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第17回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(泉谷) 血液の組成と働き②：白血球、血小板について解説する。</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>
第18回	<p>【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p> <p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p> <p>(若林) 腎・泌尿器の構造と機能③、腎臓の構造と機能-3</p> <p>教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>

第19回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (泉谷) 血液の組成と働き③：血漿、血液凝固反応、線維素溶解について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第20回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (若林) 腎・泌尿器の構造と機能④、排尿路・体液の調節 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第21回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (泉谷) 血液の組成と働き④：血液型について解説し、血液について復習する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第22回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (若林) 自律神経・内分泌①、自律神経による調節 冒頭で、第14、16、18、20回目の講義に関する小テストを行う。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第23回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (泉谷) 呼吸器系の構造と機能①：鼻腔、咽頭、喉頭について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第24回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (若林) 自律神経・内分泌②、内分泌系による調節：内分泌とホルモン 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第25回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (泉谷) 呼吸器系の構造と機能②：気管、気管支、肺について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第26回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (若林) 自律神経・内分泌③、視床下部、下垂体、甲状腺 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第27回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (泉谷) 呼吸器系の構造と機能③：呼吸のメカニズムおよび反射について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第28回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (若林) 自律神経・内分泌④、膵臓、副腎 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第29回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (泉谷) 呼吸器系の構造と機能④：ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡について解説する。 教科書または参考書の該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。</p>
第30回	<p>【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。 (若林) 自律神経・内分泌⑤、ホルモン分泌の調節 冒頭で、第22、24、26、28回目の講義に関する小テストを行う。 【事前学修】前回までの範囲の講義ノートを作成させ、第3者に説明できるように繰り返し練習すること。 【事後学修】講義した範囲の教科書該当頁を熟読し、講義ノートを作成すること。</p>

定期試験（第1回～第30回までの内容）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
塩野 徳史			
開講曜限	授業形態		
月5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■4-1 他者の援助を行える人間性をもつことができる</p> <p>■5-1 看護職者の役割が理解できる</p>
---------	---

科目の概要・目的	これから看護を学んでいくうえで、基盤となる科目である。「看護学」とは自然科学と心理学や教育学、文学、哲学などの人間科学、社会科学の融合であり、広い視野が必要になる。そこで、本科目では看護学の主要概念である「人」「健康」「環境」「看護」についてより深く探求するとともに、歴史的変遷や必要な理論について学び、看護の機能と役割、組織、看護を提供するしくみ、看護活動を展開する場について学習する。また他者への援助を行える人間性をもち、自らの将来を展望できるよう、本科目を通して、専門職業人としての倫理的態度や看護の考え方、とらえ方を学ぶ。
----------	---

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護への関心を高め、看護学の基盤となる主要概念やキーワードを説明できる。 2) 看護・対象・健康について、定義や知り得た知識にもとづいて自分自身の考えを述べることができる。 3) 看護活動における専門性とその法的根拠について説明できる。 4) 医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、自分自身の行動を省察できる。 5) 看護の歴史的変遷や現代社会で看護を提供するしくみを知り、継続教育の重要性をふまえて、自分自身の現在の看護観を考え、表現することができる。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>グループワークはAクラス・Bクラス合同で行う。司会や書記は学生が主体的に役割を分担し、その時間のテーマに沿ってキーワードを積極的に探索し、課題を見出したり、解決策や捉え方について意見交換できるようにする。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>講義やグループワークの中で教員の指示のもと、各人のタブレット端末やノートパソコンにより、教科書や参考資料を参照し、動画を視聴する。</p> <p>【その他特記事項】 知識習得を確認するために小テストを行う。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>課題レポート、小テスト、最終レポートにより総合的に評価する。</p> <p>【割合】</p> <p>課題レポート（11回）50%、小テスト（10点×3回）30%、最終レポート20%</p>
---------	---

教科書・テキスト	茂野香おる, 他: 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論, 医学書院.
----------	---------------------------------------

参考書	<p>野嶋佐由美 編集: 看護学の概念と理論, 日本看護協会出版会.</p> <p>志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明祐 編: ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論, メディカ出版.</p> <p>筒井真優美 編集: 看護理論 改訂第3版 看護理論21の理解と実践への応用, 南江堂.</p> <p>手島恵 監修: 看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理, 日本看護協会出版会.</p> <p>嶋村淳子, 石塚睦子 編著: よくわかる看護職の倫理綱領 第3版, 照林社.</p>
-----	--

授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	各授業の学習に際し、事前課題の実施、授業後の振り返りを行い、提示されたテーマに沿って、課題レポートにまとめて提出してください。そのために講義前後に各60～90分の自己学習を必要とします。課題レポートには提出期限があります。やむを得ない事情でない限り、期限を守って提出してください。
---------------------------	--

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、グループワークでは主体的に考える個人の学習が基本です。提示された課題、事前学習は必ず指示された日時までに行ってください。 ・講義演習の出席は「出席カード」で確認します。 ・講義中の携帯電話・スマートフォンなどは指示がある場合を除いて、原則、使用禁止とします。 ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染状況や、教室の規模、受講者数を総合的に考慮し、感染対策（マスク着用や手指消毒など）を講じた上で対面授業を行います。各自、体調管理には十分に注意し、健康管理に注意してください。
----------	--

オフィスアワー	塩野徳史: 講義・会議のない月曜から木曜日、9時-16時の間であればいつでもお越しください。 場所: 5号館 研究室102
---------	--

課題に対するフィードバックの方法	提出した課題レポートについては返却します。特にグループワークの時に返却しますので、意見交換に役立ててください。また講義演習で提出した小テストも返却します。小テストの回答についてはその都度、期間を決めて掲示しますので、復習に役立ててください。質問や理解が難しい箇所がある場合には、そのままにせず、可能な限りオフィスアワーやメール等で事前に日程を調整してから、お越しください。
------------------	--

実務経験	看護師
------	-----

その他	<p>看護学概論では、看護とはなにか、看護師とはどのような存在かを学びます。そして、どのような関りがその人のためになり、あるいは、その人のためにならないかを考えていきます。 看護学はこれまでの学問と異なり、「正解のない」学問です。それは、看護の対象となる人々は、ひとりとして同じ人はいないからです。年齢もジェンダーも国籍も、疾病の状況も、その受けとめ方や向き合い方も、みんなそれぞれ異なります。したがって、本当にその人の役にたつためには、広い知識や人間の理解を土台にしつつ、皆さん自身の看護の考え方やとらえ方も重要になるのだと思います。 授業以外でも社会現象に関心を持ち、医療や看護に関する日々のニュースを見てください。五感を使い、様々な本を読み、その内容や感じたことを他の人に伝えようとする経験も「看護」につながっていくと思います。</p>
授業の内容	<p>第1-4回 看護とはなにか 第1章 看護職能団体による看護の定義を学び、さまざまな理論家による看護のとらえ方を糸口に、看護の本質とはなにかについて常に考えていける知識や態度を学習する。さまざまな概念や言葉の定義を学ぶことで、看護におけるケア、援助とはなにかを考える。 また看護実践とその質保証に必要な条件を学習し、事例を通して看護の役割と機能が拡大し、看護の継続性と多職種との連携の実際を概観する。</p> <p>【事前学修】1回目は教科書 序章を読み、看護について考えてくる。2回目以降は配付資料やレジュメと教科書 第1章を読み、感じたこと、気づいたこと、考えたことをまとめ、説明できるように準備する。</p> <p>【事後学修】各回の講義では、その講義内容をふまえたテーマを提示する。自分自身の考えを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し翌日に提出する。</p> <p>第5-6回 看護の対象 -人のこころとからだを理解する- 第2章 看護を実践するうえで、相手に関心を寄せ、相手を思いやり、気づかうことが大切である。それは相手を理解するということでもある。そのため、解剖生理学や病態生理の知識が看護実践と、どのように結びつくか理解し、看護ともよく関連づけられる心理学のさまざまな理論を学ぶ。 事例を通して、対象を「生活する人」ととらえる力を身につけ、看護が果たす役割を学ぶ。また個人だけではなく、家族・集団・地域も看護の対象であることを学ぶ。</p> <p>【事前学修】配付資料やレジュメと教科書 第2章を読み、感じたこと、気づいたこと、考えたことをまとめ、説明できるように準備する。</p> <p>【事後学修】各回の講義では、その講義内容をふまえたテーマを提示する。自分自身の考えを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し翌日に提出する。</p> <p>第7-8回 健康とはなにか 第3章 看護という仕事につくということは、国や社会の人々の健康や生活に深く関わることでもある。健康とは、その人が生活する社会の影響を大きく受ける。そのため主要な公的統計の結果から、国民全体の健康と生活像を把握する力を身につける。 また、健康とはなにか、障害とはなにか、病とはなにか、それらをどのようにとらえるのか、事例や健康や生活を考える上で重要ないくつかの視点を学び、考える。</p> <p>【事前学修】配付資料やレジュメと教科書 第3章を読み、感じたこと、気づいたこと、考えたことをまとめ、説明できるように準備する。</p> <p>【事後学修】各回の講義では、その講義内容をふまえたテーマを提示する。自分自身の考えを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し翌日に提出する。</p> <p>第9-10回 看護における倫理 第5章 看護における倫理を考えることは、対象にとって、何が本当に「よい（善い）こと」であるのか、「よい看護とはなにか」を考えることである。医療・看護をめぐる倫理的問題には、どのようなものがあるかを理解し、看護職の倫理規定を学ぶ。 また学生にも関わる医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマの解決にどのように向き合い、取り組むことができるか考える。</p> <p>【事前学修】配付資料やレジュメと教科書 第5章を読み、感じたこと、気づいたこと、考えたことをまとめ、説明できるように準備する。第1-3章で学習した内容を振り返る。</p> <p>【事後学修】各回の講義では、その講義内容をふまえたテーマを提示する。自分自身の考えを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し翌日に提出する。</p> <p>第11-12回 職業としての看護 第4章 看護職という職業が、どのような社会的背景のなかで、確立し、発展してきたのかを、歴史的変遷とともに学ぶ。またわが国における看護職者の就業状況と継続教育の概要を理解し、看護師に求められている実践能力の内容について学ぶ。</p> <p>【事前学修】配付資料やレジュメと教科書 第4章を読み、感じたこと、気づいたこと、考えたことをまとめ、説明できるように準備する。</p> <p>【事後学修】各回の講義では、その講義内容をふまえたテーマを提示する。自分自身の考えを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し翌日に提出する。</p> <p>第13-14回 看護を提供するしくみ 第6章 看護をめぐる制度と政策を学び、看護が地域の中でどのように提供されているのか、看護の場（地域医療、継続医療）について理解する。また、看護を提供するしくみとしての組織体制（チーム医療）やヒューマンエラー、医療事故について学習し、実習などで、これから看護を学ぶために必要な基本的態度について考える。</p> <p>【事前学修】配付資料やレジュメと教科書 第6章を読み、感じたこと、気づいたこと、考えたことをまとめ、説明できるように準備する。第4章で学習した内容を振り返る。</p> <p>【事後学修】各回の講義では、その講義内容をふまえたテーマを提示する。自分自身の考えを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し翌日に提出する。</p> <p>第15回 広がる看護の活動領域 第7章</p>

在留外国人は年々増加し、長く滞在する外国人も増えてきた。それに伴い入院・外来患者だけでなく、その家族や地域に暮らす障がいをもつ人、介護が必要な人の中にも外国人がみられるようになってきた。感染症の世界的流行など、世界で取り組まなければならない課題もある。国際看護の領域とその視点を学び、多様に広がってきた看護活動を探索し、グループワークを通じて理解する。
また震災や豪雨など、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を看護の視点で理解し、災害サイクルと看護職の役割やトリアージについても探索し、同様に学ぶ。

【事前学修】教科書 第7章を読み、感じたこと、気づいたこと、考えたことをまとめ、説明できるように準備する。第6章で学習した内容を振り返る。

【事後学修】これまでの講義を通して知りえた知識を活用して、わたしの看護観 - 自分にとって看護とは何か - をテーマに、自分自身の言葉でまとめる。所定の用紙に手書き（800字-1200字以内）で記述して提出する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
野口、寿美子、塩野 徳史、吉井 紀子、田中 亮子、友澤 満地子			
開講曜限	授業形態		
水3、4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■3-1 科学的根拠に基づく知識を持つことができる</p> <p>■3-2 問題解決のために思考し、得た知識を用いて臨床判断できる</p>
科目の概要・目的	看護の対象者を「生活する人」としてとらえ、日常生活をより良く支援するための原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる思考―行動の基本を身につける。また、演習では実習室という病床を模した学習環境において、看護者と対象者の両者を経験することによって多様な視点で対象を捉える力を養い、看護に必要な主体的な学習態度とチームで協働して学びあう姿勢・態度を修得する。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護技術の原理・原則、根拠について説明できる。 2) 看護に共通する基本的な看護技術を実施できる。 3) 看護の対象者の療養環境を理解し、必要な看護ケアを計画することができる。 4) グループで協働し倫理的な配慮を伴った安全・安楽・自立を目指した看護ケアを展開できる。 5) 主体的・能動的な学修態度を身につけることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>講義は2クラス合同、技術演習はA・Bクラス別に行う。 演習は1ベッドあたり3～4人の男女混合や男女別グループに分かれて行い、グループディスカッションを主体にした学生同士の双方向のコミュニケーションを取り入れて行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>デジタルデバイスを活用し、e-テキストの画像・動画を閲覧して看護技術のイメージを明確化する。</p> <p>【その他特記事項】 講義後の学びの振り返りレポート、演習後の事後課題および前回授業での学びを小テストでアウトプットする機会をもつ。</p>
成績評価の方法	<p>【評価基準】</p> <p>定期試験（筆記）50%、技術試験（実技）20%、提出物20%、小テスト10%を総合して評価する。</p>
教科書・テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第19版 茂野香おる編（医学書院）</p> <p>「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版 任和子編（医学書院）</p>
参考書	<p>『看護がみえる vol.1』基礎看護技術 医療情報科学研究所編（メディックメディア）</p> <p>『看護がみえる vol.2』臨床看護技術 医療情報科学研究所編（メディックメディア）</p> <p>『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版』任和子/井川順子編 医学書院</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>◇事前学習（予習と予習時間）</p> <p>テキスト・授業資料・関連動画を活用し、各単元の技術の手順と根拠を説明した事前課題を行い演習に臨む（1～3時間）</p> <p>◇事後学修（復習と復習時間）</p> <p>各単元の事後課題により演習を振り返り、自己練習を繰り返して看護技術を身につける（1～3時間）</p>
履修上の留意事項	<p>看護技術の修得は、講義→演習→自己練習（反復訓練）→技術習得が基本となります。</p> <p>1) 技術演習はグループの協働による体験学習が中心となるため、全ての出席を前提とします。やむを得ない理由による欠席の場合は、速やかに担当教員まで、事前連絡を行ってください。</p> <p>2) 演習は、事前学習を十分に行い、講義内容を自分の中に落とし込み、主体的な学習行動で学びを深めるようにしてください。</p> <p>3) 演習は、学生同士やシミュレーターを用いて学習しますが、実際の対象者に看護ケアを提供しているという意識を持って演習に取り組んでください。</p> <p>4) 事前課題・事後課題などの提出期限は厳守してください。</p> <p>5) 課題内容の不備や提出できない場合には、演習に参加できないことがあります。</p> <p>6) 看護技術の習得には繰り返しの練習が不可欠であるため、演習時間外に十分な自己練習を行ってください。</p> <p>7) 実習室は病床を模した環境です。利用に際しては看護者としての自覚をもち、身だしなみを整え、私語は慎み、技術習得のために真摯な態度で臨むようにしてください。</p>
オフィスアワー	月曜日～木曜日の9時～16時。在室時には随時対応します。（事前のポイントを優先します。）
課題に対するフィードバックの方法	提出物・小テストは返却します。提出物へのコメント、次回講義内や演習中のディスカッション等を通してフィードバックします。
実務経験	看護師
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義科目・クラスの曜日・時限は固定されず変則的となることがあるため、講義スケジュールをしっかりと確認してください。 2) 原則、実習室内へのスマートフォン、携帯電話等の持ち込み・使用を禁止しています。

	<p>3) 実習室の準備・片付け・清掃は演習の一環として行います。教員の指示のもと、学生が交代で主体的に行ってください。 ここに書かれていない留意事項等は、第1回の授業ガイダンス時に説明を行います。</p>
授業の内容	<p>科目ガイダンス ※基礎看護援助論Ⅰのシラバスを事前によく読み授業に臨んでください。</p> <p>1. 講義、演習、実習について 2. 看護技術について 3. 感染対策の基本について（スタンダードプリコーション、手洗い） 4. 実習室ガイダンス ・実習室の使い方・身だしなみ・手指衛生について ・自己学習の方法について （講義） 環境調整技術①</p> <p>第1回</p> <p>・療養環境を整える意義、目的、方法 ・療養環境の調整と整備（リネンの取扱い・ベッドメイキング） 【事前学修】テキスト第2章を読み、関連動画を視聴する。わからない言葉は調べる。 【事後学修】安全・安楽な環境を健康状態や自立度に応じて整備するために必要な要素とその方法を説明できるようにする。 （講義） 活動・休息援助技術①</p> <p>第2回</p> <p>・活動と休息（ボディメカニクス、体位変換） 【事前学修】テキスト第4章を読み、関連動画を視聴する。わからない言葉は調べる。 【事後学修】ベッド上での患者の体位の一覧と、スムーズな体位変換の手順と留意点を説明できるようにする。 （演習） 環境調整技術②</p> <p>第3-4回</p> <p>1. リネンの取り扱い 2. ベッドメイキング 【事前学修】ベッドメイキングの計画書を作成する。演習までに関連動画を視聴し、実際の動きをイメージする。 【事後学修】演習を通して学んだことや気づき・留意点（根拠）を、計画書に追加・修正して、提出する。 （講義） 活動・休息援助技術②</p> <p>第5回</p> <p>・体位変換 ・移乗 【事前学修】テキスト第4章を読み、関連動画を視聴する。わからない言葉は調べる。 【事後学修】計画書に留意点・根拠などを追加・修正して提出する。 （演習） 活動・休息援助技術②</p> <p>第6-7回</p> <p>・体位変換 【事前学修】様々な体位変換の計画書を作成する。関連動画を視聴し、実際の動きをイメージする。 【事後学修】計画書に留意点・根拠などを追加・修正して提出する。 （講義） 活動・休息援助技術③ 小テスト①</p> <p>第8回</p> <p>・移動の援助（歩行の介助、杖歩行） ・移送（車椅子、ストレッチャー） 【事前学修】テキスト第4章を読み、関連動画を視聴する。わからない言葉は調べておく。 【事後学修】計画書に留意点・根拠などを追加・修正して提出する。 （演習） 活動・休息援助技術④</p> <p>第9-10回</p> <p>1. 車いすの移乗・移送 2. ストレッチャーの移乗・移送 【事前学修】車椅子・ストレッチャー移乗と移送の計画書を作成する。関連動画を視聴し、実際の動きをイメージする。 【事後学修】計画書に留意点・根拠などを追加・修正して提出する。 （講義） 環境調整技術③</p> <p>第11回</p> <p>・療養環境を整える ・感染防止の基本（スタンダードプリコーション、PPE） ・ベッド周囲の環境整備とリネン交換 【事前学修】テキスト第1章、テキスト基礎看護技術Ⅰ第2章を読み、関連動画を視聴する。わからない言葉は調べておく。 【事後学修】環境整備と臥床患者のリネン交換の手順に沿って、必要なコミュニケーションがとれるようにまとめる。 （演習） 環境調整技術④</p> <p>第12-13回</p> <p>1. 感染防止の技術（マスク、エプロンの着脱、手洗い） 2. 臥床患者のシーツ交換 【事前学修】臥床患者のシーツ交換の計画書を作成する。演習までに関連動画を視聴し、実際の動きをイメージする。 【事後学修】計画書に留意点・根拠などを追加・修正して提出する。</p> <p>技術試験 詳細は技術試験オリエンテーションで説明する。</p> <p>第14回</p> <p>（講義） 食事援助技術① 小テスト②</p>

	<p>・食形態と食事摂取の介助 【事前学修】テキスト第2章を読み、関連動画を視聴する。わからない言葉は調べておく。 【事後学修】食事姿勢の保持や食事動作が自力してできない人への食事介助のポイントをまとめ、説明できるようにする。 (演習) 食事援助技術②</p> <p>第15回</p> <p>1. 食事介助 【事前学修】食事介助の計画書を作成する。演習までに関連動画を視聴し、実際の動きをイメージする。 【事後学修】計画書に留意点・根拠などを追加・修正して提出する。</p> <p>定期試験</p>
--	---

講義科目名称： 生命倫理

授業コード： 53207210

英文科目名称： Bioethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
若林 繁夫			
開講曜限	授業形態		
月1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-1 対象の一人一人を唯一無二の存在であると理解し尊重できる</p> <p>■4-1 他者の援助を行える人間性をもつことができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	将来医療・福祉関係の職に従事する学生にとって、臨床現場で起こる様々な倫理的な課題について、その背景・原因・問題点を認識しておくことは重要である。また日進月歩の医学研究においても、ES細胞の使用、ゲノム編集、遺伝子診断などの問題をめぐって多くの倫理的な課題がある。生命倫理については、多くの場合「正解」というものはない。しかし、どのような問題点があり、自分自身はどのように考えるのかをあらかじめ認識しておくことは重要だろう。このような背景のもと、生命倫理についての講義を行う。
学習到達目標	1. 生命倫理にはどのようなテーマがあり、それぞれどのような倫理的な問題点があるかをよく認識しておくこと。 2. それぞれの問題点について、自分の意見を述べるようにすること。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 毎回、授業を理解しているか確認するために講義の感想を書かせたり、ケーススタディーに対する各自の考えを文章に書いてもらい、出席カードとともに提出してもらう。また、できる限り学生に授業中に発言させるようにしたい。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 対面授業ができない場合には録画授業を行い、Streamを用いて履修者に発信する。情報はA-portalを利用して発信する。</p> <p>【その他特記事項】 昨年度の他の科目の授業アンケートでは、DVDの視聴が好評であった。そこで今年度の生命倫理の講義でも、理解を助けるためにDVD視聴を多用したい。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 講義終了後に出席カード（マークシート付き）+ 記述問題提出、毎回の講義の平常点+提出課題によって評価する。</p> <p>【割合】 提出課題80%、平常点20%</p>
教科書・テキスト	毎回、資料を配布する。教科書は使用しないが、必要に応じて紹介する。
参考書	講義の中で、必要に応じて紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	興味のあるテーマに関しては、紹介した本、参考書、教科書、WEBなどを利用して自分で勉強してみることに。
履修上の留意事項	筆記用具は毎回忘れずに持参すること。
オフィスアワー	出講日（月曜日、木曜日、金曜日）の講義などの予定が入っていない時間帯。
課題に対するフィードバックの方法	課題の評価などに関して、質問があればオフィスアワーで返答する。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 “いのち”の優先順位 新型コロナをめぐって、“医療崩壊”という問題が持ち上がった。切迫した医療現場では、誰に人工呼吸器をつけるか、だれの人工呼吸器をはずすかという究極の選択を迫られる。このような場合では「正義」が問われる。生命倫理講義の第1回は、今の状況を先取りして制作されたような、「新型インフルエンザの恐怖」というDVDを視聴し、“いのち”の優先順位という重いテーマについて考えたい。 【事前学修】講義開始までに、ニュースで報道される生命倫理的な話題について興味を持っておくこと。 【事後学修】この回で扱うテーマについて、資料を参考に自分でもう一度考えてみることに。自分の興味のあるテーマについて、紹介する参考書を読んでみることに。</p> <p>第2回 生命倫理をめぐるさまざまな問題点 第2回は、生命倫理をめぐるさまざまな問題点について学ぶ。生命倫理の基本構造、臨床現場におけるインフォームドコンセントや医療におけるケアについて学ぶ。 【事前学修】講義開始までに、ニュースで報道される生命倫理的な話題について興味を持っておくこと。 【事後学修】この回で扱うテーマについて、資料を参考に自分でもう一度考えてみることに。自分の興味のあるテーマについて、紹介する参考書を読んでみることに。</p> <p>第3回 生まれてくる“いのち”の権利～生殖補助医療～</p>

	<p>第3回は、人工授精、体外受精、多胎妊娠、性的マイノリティーの出産問題などの生殖補助医療における、さまざまな倫理的問題点を扱う。これに関連して、「卵子の老化」というDVDを視聴する。</p> <p>【事前学修】講義開始までに、前回までに紹介した書籍を読んだり、ニュースで報道される生命倫理的な話題について興味を持っておくこと。</p> <p>【事後学修】生殖補助医療について、資料を参考に自分でもう一度考えてみる。自分の興味のあるテーマについて、紹介する参考書を読んでみる。</p>
第4回	<p>生まない権利は許されるのか？～人工妊娠中絶と出生前診断～</p> <p>近年、病をもって生まれてくるかどうかを出生前に診断できるようになった。そのような胎児の人工中絶は許されるのか？「胎児エコーの光と影」というDVDを視聴し、その問題を考えたい。</p> <p>【事前学修】講義開始までに、前回までに紹介した書籍を読んだり、ニュースで報道される生命倫理的な話題について興味を持っておくこと。</p> <p>【事後学修】人工妊娠中絶と出生前診断について、資料を参考に自分でもう一度考えてみる。自分の興味のあるテーマについて、紹介する参考書を読んでみる。</p>
第5回	<p>技術革新によってもたらされる新たな倫理的課題</p> <p>生命科学、医学研究のスピードは速く、倫理面が追いついていないことが多い。「人体改造時代の衝撃」というDVDを視聴し、研究で新たに持ち上がってきた問題について考えたい。2020年のノーベル化学賞受賞対象である「ゲノム編集」を用いれば、原理的には、遺伝的操作で自分の望む子供を産むことも可能であり、新たな倫理的問題として浮上している。</p> <p>【事前学修】講義開始までに、前回までに紹介した書籍を読んだり、ニュースで報道される生命倫理的な話題について興味を持っておくこと。</p> <p>【事後学修】技術進歩でもたらされる新たな倫理的な課題について、資料を参考に自分でもう一度考えてみる。自分の興味のあるテーマについて、紹介する参考書を読んでみる。</p>
第6回	<p>遺伝子研究の進歩がもたらした新たな倫理的課題～遺伝子診断～</p> <p>胎児、幼児、成人を問わず、遺伝子診断によって将来重い遺伝病にかかるかどうかあらかじめ知ることができるようになった。たとえば女優のアンジェリーナは遺伝子診断の結果、乳がん予防のため自分の乳腺を切除した話は有名である。第6回は、「遺伝子診断-新しい予知医療の光と影」というDVDを視聴し、遺伝病になる可能性が高い胎児は中絶してもいいのか、遺伝病にかかる診断されたら保険は適用されるのかといったさまざまな倫理的・社会的な問題について考える。</p> <p>【事前学修】講義開始までに、前回までに紹介した書籍を読んだり、ニュースで報道される生命倫理的な話題について興味を持っておくこと。</p> <p>【事後学修】遺伝子診断について、資料を参考に自分でもう一度考えてみる。自分の興味のあるテーマについて、紹介する参考書を読んでみる。</p>
第7回	<p>“いのち”の選択を迫られるとき～終末期医療～</p> <p>第7回は、終末期医療について考える。認知症問題、終末期ケア、ホスピス、緩和ケア、尊厳死、安楽死などの倫理的問題について考える。</p> <p>【事前学修】講義開始までに、ニュースで報道される生命倫理的な話題について興味を持っておくこと。</p> <p>【事後学修】終末期医療について、資料を参考に自分でもう一度考えてみる。自分の興味のあるテーマについて、紹介する参考書を読んでみる。</p>
第8回	<p>死とは何か？～脳死、臓器移植、再生医療をめぐる問題～</p> <p>人の死とは何か？脳死は人の死と言えるのか？難しい問題であるが、日本では1997年に「臓器移植法」が施行され、ドナーから臓器摘出が可能となった。理想である人工臓器の開発も進展している。最終回は、「老衰死 ～穏やかな最後を迎えるには～」というDVDを視聴し、人の死について考えたい。</p> <p>【事前学修】講義開始までに、前回までに紹介した書籍を読んだり、ニュースで報道される生命倫理的な話題について興味を持っておくこと。</p> <p>【事後学修】人の死に関するテーマについて、資料を参考に自分でもう一度考えてみる。自分の興味のあるテーマについて、紹介する参考書を読んでみる。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
吉井 紀子、塩野 徳史、田中 亮子、野口 寿美子、友澤 満地子			
開講曜限	授業形態		
火4、5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■2-1 対象者のQOLについて考えることができる</p> <p>■2-2 対象者と援助的なコミュニケーションをとることができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	看護実践において、対象者と信頼関係を構築し、より良い看護を展開するためにコミュニケーションは必要不可欠である。本科目では、看護に必要な基本的なコミュニケーション能力を修得する。
学習到達目標	<p>1) コミュニケーションの基本的な意義と目的を理解し、看護におけるコミュニケーションの重要性を説明できる。</p> <p>2) コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、ミスコミュニケーションを避ける方法を説明できる。</p> <p>3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本を理解し、看護場面でコミュニケーション技術を適切に実践できる。</p> <p>4) コミュニケーション障害のある人の特徴と効果的な対応を説明できる。</p> <p>5) 自己のコミュニケーションの特徴を知り、自己の課題を振り返ることができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>・A・Bクラスに分け、少人数制で行います。知識・技術の効果的な学修方法としてスモールステップ法を取り入れ、1コマ内で講義と演習を繰り返し行い、ペアワークもしくはグループワークを通して1つ1つの技術を習得します。</p> <p>・第13・14・15回の演習は5～6人で1グループに分かれ、各グループで準備した計画書に沿って演習をします。演習グループのメンバーはA・Bクラスを混合し、2クラスにわかれて行います。</p> <p>・第14・15回は実習場面を想定したシミュレーション形式の演習を実習室で行います。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>・講義や演習の中で教員の指示のもと、ノートパソコンで電子書籍を参照し、動画の視聴を行います。</p> <p>・OutlookのTeamsやFormsなどのオーディエンスレスポンスシステム（ARS）機能を活用し、資料の共有や学生の意見をリアルタイムで回収する双方向対話型授業も取り入れます。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 提出課題、小テスト、グループワーク他者評価、定期試験（筆記）で評価します。</p> <p>【評価割合】 提出課題30% 小テスト10% グループワーク10% 定期試験（筆記）50%</p>
教科書・テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院
参考書	<p>・仲間とみがかく看護のコミュニケーション・センス 大森武子、大下静香、矢口みどり 医歯薬出版株式会社2019.</p> <p>・もう実習で困らない！患者とのコミュニケーション 押さえておきたい基本と患者の個別性に合った応対術 松崎郁子 サイオ出版2019.</p> <p>・保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション入門 石川ひろの 大修館書店2020.</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	1講義あたり1時間の事前事後学習が必要となります（45時間－30時間＝15時間／1単位）。課せられた課題は個人で学習しますが、課題によりグループ学習を指示する場合があります。
履修上の留意事項	<p>・課題は期限内に指定の場所に提出してください。期限の過ぎた課題は評価の対象外となります。ただし、体調不良や公共交通機関の大幅な遅延などやむを得ない事情は配慮します。形式の不備や不足は減点の対象となります。</p> <p>・公欠の認定は登校日より1週間以内に、公欠願を提出し課せられた課題を提出した人が対象となります。</p> <p>・欠席した場合は、次の授業までに講義資料を取りに来てください。</p> <p>・講義・演習の出席は「出席カード」の提出で最終確認をします。</p> <p>・看護職者として相応しい言動を心がけ、実習室を使用する場合は、指定された身だしなみで入室してください。</p>
オフィスアワー	月～木曜日 12:15～13:05 左記以外では在室時、適宜対応いたします。 *不在時はメールやTeamsチャットに連絡、もしくはメモでメッセージを残してください。
課題に対するフィードバックの方法	課題は後日返却し、課題内容や質問には次の講義内でフィードバックを行います。
実務経験	看護師・助産師・保健師
その他	講義・演習は全出席を基本とします。やむを得ず欠席・遅刻する場合には、担当教員に連絡・相談してください。
授業の内容	

第1回	<p>コミュニケーションとは（講義） 科目ガイダンス コミュニケーションの意義と目的を学ぶ 言語的・非言語的メッセージについて学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p>
第2回	<p>【事前学修】 シラバスを読み理解する 【事後学修】 授業の復習（コミュニケーションとは）と事後課題（接近的行動）に取り組む 接近的行動とパーソナルスペース（講義・演習） 接近的行動およびパーソナルスペースを学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（自己紹介の準備）に取り組む 【事後学修】 授業の復習（接近的行動）と事後課題（パーソナルスペースの計測）に取り組む</p>
第3回	<p>傾聴（講義・演習） コミュニケーションに必要な傾聴の技術を学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p>
第4回	<p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（傾聴）に取り組む 【事後学修】 授業の復習（傾聴の技術）と事後課題（傾聴）に取り組む ミスコミュニケーション（講義・演習） ミスコミュニケーションの特徴を知り、回避する方法について学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（ミスコミュニケーション）に取り組む 【事後学修】 授業の復習と事後課題（説明の技術）に取り組む</p>
第5回	<p>情報収集・説明・報告（講義・演習） 看護に必要な情報収集のための質問（問診）の技術を学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（プレゼンテーション）に取り組む 【事後学修】 授業の復習と事後課題（質問の技術）に取り組む</p>
第6回	<p>コミュニケーション技術の統合（講義・演習） インタビューを通して学修した技術を統合し看護者に求められるコミュニケーション技術を学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（プレゼンテーション）に取り組む 【事後学修】 授業の復習と事後課題（インタビューの振り返り）に取り組む</p>
第7回	<p>アサーティブネス①（講義・演習） コミュニケーションに必要なアサーティブネスの技術を学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（過去のコミュニケーション事例）に取り組む 【事後学修】 授業の復習と事後課題（アサーティブネス）に取り組む</p>
第8回	<p>アサーティブネス②（講義・演習） アサーティブな言動への変換を学ぶ ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（アサーティブネス）に取り組む 【事後学修】 授業の復習（アサーティブネス）と事後課題（振り返り）に取り組む</p>
第9回	<p>アサーティブネス③（講義・演習） 事例を通してアサーティブな言動への変換を学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（アサーティブネス）に取り組む 【事後学修】 授業の復習（コミュニケーション障害の援助）と事後課題（演習計画書）に取り組む</p>
第10回	<p>コミュニケーション障害への対応（講義・演習） コミュニケーション障害のある方への対応を学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（コミュニケーション障害）に取り組む 【事後学修】 授業の復習と事後課題（振り返り）に取り組む</p>
第11回	<p>プロセスレコード①（講義・演習） プロセスレコードの意義と目的を学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（プロセスレコード）に取り組む 【事後学修】 授業の復習と事後課題に取り組む</p>
第12回	<p>プロセスレコード②・カンファレンス（講義・演習） プロセスレコードを通して自己の発言や思考を振り返る カンファレンスの意義や目的、基本技術を学ぶ *ペアやグループでの演習を通して技術を習得する</p> <p>【事前学修】 前回授業の復習と事前課題（プロセスレコード）に取り組む</p>

第13回	<p>【事後学修】授業の復習と事後課題（プロセスレコード修正）に取り組む コミュニケーション演習1：シュミレーション演習準備（講義・演習） 第14・15回のシュミレーション演習の説明 課題のグループワーク</p>
第14回	<p>【事前学修】前回授業の復習と事前課題に取り組む 【事後学修】授業の復習と事後課題（個人・グループで計画書作成）に取り組む コミュニケーション演習2：シュミレーション演習①（演習：実習室） 実習場면을想定したシュミレーション演習①（初対面のコミュニケーション） *基礎看護学実習室</p>
第15回	<p>【事前学修】事前課題に取り組む（個人・グループで計画書の作成） 【事後学修】授業の復習と事後課題（演習振り返り）に取り組む コミュニケーション演習3：シュミレーション演習②（演習：実習室） 実習場면을想定したシュミレーション演習②（環境整備） *基礎看護学実習室</p>
定期試験	<p>【事前学修】前回授業の復習と事前課題に取り組む（個人・グループで計画書の作成） 【事後学修】授業の復習と事後課題（演習振り返り）に取り組む</p>

講義科目名称： 基礎看護学実習

授業コード： 53209000

英文科目名称： Basic nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
塩野 徳史、西田 紀子、吉井 紀子、田中 亮子、野口 寿美子、清岡 美和子、友澤 満地子、高橋 建司			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■看護学科■</p> <p>■1-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合した存在であると理解できる</p> <p>■2-2 対象者と援助的なコミュニケーションをとることができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>本科目では、病院に入院している対象者との関りや、看護援助の見学を通して、療養環境と疾患をもつ人を理解し、看護の基本姿勢を養うことにある。入学して初めての病院実習であり、看護学生として早い時期に病院での実習を行い、看護の役割を理解するとともに、対象者の様子や療養生活の実際を把握して、今後の学習に役立てる。</p> <p>また実際の医療現場を体験することにより、病院の概要（病院の理念、看護の理念、病院の組織等）や特徴、病院における看護の役割などの知識と体験を結び、今後看護学の学習を進める上での動機づけとする。</p>
----------	--

学習到達目標	<p>1) 対象者が生活している場の環境（療養環境）が理解できる。</p> <p>2) 対象者・家族との関わりを通して、看護におけるコミュニケーションの意味と方法を理解できる。</p> <p>3) 看護援助の見学を通して、看護業務の内容を学び、看護の役割と責務を考えることができる。</p> <p>4) 実習に主体的に取り組み、学びを深めることができる。</p>
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>学外での臨地実習とする。臨地実習は3人～5人のグループに分かれて実施する。実習先では担当教員の指導のもと、学生自身が主体的に日々の課題を見つけ、解決に向かって行動することが基本となる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 詳細については実習要項をもとにガイダンスで説明するので必ず出席すること。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>自己評価を参考に、実習目標に対する到達状況について、実習記録、実習への参加度を総合的に評価する。</p> <p>【割合】</p> <p>自己評価を参考に、実習目標に対する到達状況（60%）、実習記録、実習参加度（40%）など、評価基準により総合的に評価する。</p>
---------	--

教科書・テキスト	<p>茂野香おる,他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論, 医学書院.</p> <p>茂野香おる,他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.</p> <p>茂野香おる,他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.</p>
----------	---

参考書	<p>石川雅彦 監修：臨地実習の不安をなくす12のトレーニング, 学研.</p> <p>篠崎恵美子, 藤井徹也：看護コミュニケーション 第2版, 医学書院.</p>
-----	--

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>実習開始までに、解剖生理や看護学概論の復習、基礎看護援助論Ⅰ、看護コミュニケーション論で修得した看護技術を復習し、繰り返し練習すること。</p>
---------------------------	---

履修上の留意事項	<p>本実習は、実際に治療あるいは療養中の対象者に対して看護援助を提供している現場を見て、聞いて、感じ、考える体験的学習になります。ただ見るだけではなく、気になった場面や看護師の行動を見学し、その行動に至るまでの看護師の思考や判断の根拠を自分なりに考え、確認することが重要です。同じ状況に遭遇しても、「看護師が何を見て、考えて、行動していたか」は自分の考えと異なる場合が多く、看護師の行動の目的を教科書や参考書等で振り返り、教員や看護師に直接確認していくことで学習効果は高まります。</p> <p>全出席が原則です。一日でも休むと、施設の対象や病院・病棟に対してご迷惑となり、実習の学びにも影響します。実習では「実習目標」のうち、何を学びたいのかを明確にして、教員や実習指導者の助言を受けてから参加してください。</p>
----------	--

オフィスアワー	<p>塩野徳史：講義・会議のない月曜から木曜日、9時～16時の間であればいつでもお越しください。</p> <p>場所：5号館 研究室102</p>
---------	---

課題に対するフィードバックの方法	<p>臨地実習では、実習記録を適宜確認し、担当教員からフィードバックを行います。学生自身が積極的に、報告、連絡、相談をとりながら、臨地実習を進めてください。</p>
------------------	--

実務経験	<p>看護師</p>
------	------------

その他	<p>新型コロナウイルス感染症の感染状況やその他の感染症の状況を総合的に考慮し、感染対策（マスク・フェイスシールド着用や手指消毒など）を講じた上で行います。各自、抗体価や推奨されたワクチン接種の状況について事前に提出することが求められます。また実習が始まる2週間前から体調管理には十分に注意し、健康管理表を持参して提示する必要があります。</p> <p>そして適切な生活習慣を身につけ、身だしなみを整えて参加してください。</p> <p>ガイダンスで配付された資料類は、必ず実習ファイルに綴じて整理するようにしてください。</p> <p>実習前にオリエンテーションを予定しています。週間予定表等で確認して、必ず出席してください。</p>
-----	--

授業の内容	<p>実習内容</p> <p>本実習では、看護師とともに行動し、看護援助の実際を見学し、状況に応じて看護師と共に対象</p>
-------	--

に看護援助を実践する。また対象との関わりや療養の現場にお邪魔させていただくことで、看護におけるコミュニケーションや疾患をもつ人について考え、記録する。

【事前学修】

説明を受け、「個人情報の保護に関する誓約書」「実習記録等の取り扱いに関する誓約書」を看護学部長宛に、および「患者様の個人情報の保護に関する誓約書」を実習施設長宛に提出する。

実習期間：1週間

- ・令和6年8月21日（水）～8月30日（金）（この内、5日間）
- ・9：00～16：30（集合時間は実習病院により異なる）
- ・実習配置についてはAクラスBクラス混合で配置する。

【事前学修】 1～2週間前より、事前課題を進め、生活習慣を整えて準備する。

実習病院

箕面市立病院、川西総合医療センター、第二協立病院、千里中央病院、刀根山医療センター、医誠会国際総合病院等

【事前学修】 各病院、病棟の理念や経路を調べる。

基礎看護学実習 ガイダンス①

- ・臨地実習とは何か
- ・学生の心構え
- ・個人情報の保護について
- ・事前学習等について

【事前学修】 週間予定表で日程を確認し、必ず出席すること。

基礎看護学実習 ガイダンス②

- ・実習要項の説明
- ・記録の書き方
- ・カンファレンスの方法
- ・実習配置について

【事前学修】 週間予定表で日程を確認し、必ず出席すること。

基礎看護学実習 初日ガイダンス

- ・実習要項の再確認
- ・事前学習の確認
- ・施設別オリエンテーション（集合時間や実習施設の注意事項について）
- ・カンファレンスの方法と演習
- ・日常生活援助（ベッドメイキング・環境整備）技術の再確認

【事前学修】 週間予定表で日程を確認し、必ず出席すること。